

2003年度
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画

美術設計論

東京美術大学

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語文法論 (旧 日本語文法・文体論)		春学期集中	4 単位	有川康二
<p>[講義概要・学習目標] ここでは、ヒト脳の自然言語計算処理過程に関わる3つの特徴(音特徴、意味特徴、構造特徴)のうち、意味特徴と構造特徴に焦点をあてて議論する。日本語の母語話者の文法性反応を使用して思考実験を行う。ヒト脳という複雑系において出現した自然言語における構造とは何か?ヒトの幼児がどの言語でも努力なしに獲得できるのは何故か?一致現象は英語にはあるが、日本語にはないと言われるが、本当か?一致現象とは何か?日本語には主語はないと言われるが、本当か?主語とは何か?「は」と「が」の違いは何か?「昨日、御飯、食べた?」に対する否定の答えは「いや、食べなかった」だが、「もう御飯、食べた?」に対しては「いや、まだ食べなかった」は変だ。「まだ食べていない」である。何故か?「猫が金魚を食べた」と「金魚が猫に食べられた」は何かどう違うのか?「私は猫に金魚を食べられた」と何がどう違うのか?これらの文は、頭の中でどのように形成され、解釈されているのか?英語の疑問詞は文頭に動き(What did Mary buy?)、日本語では動かない(花子は何を買ったの?)と言われるが、本当か?自然が創造したヒト脳に関わる自然法則や計算処理のメカニズムを、日本語という自然言語の観察を通して吟味する。日本語学概論、英語統語論、言語習得論、数学、生物学、自然科学関連の講義も受講することが望ましい。</p>	<p>[講義計画] 日本語のきまりと仕組み 文の構成要素とその種類分け 「こと」の類型(述語の種類とその補語との結びつき) 「主語」「主格」「主題」 述語の活用 テンス・アスペクト 態(ヴォイス・格と動詞の形との相関) 心的態度(ムード)の表現</p>			
<p>[成績評価の方法] 出席・筆記試験</p>	<p>[参考文献] 寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味I』(くろしお出版) 寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味II』(くろしお出版) 寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味III』(くろしお出版)</p>			
<p>[教科書] 寺村秀夫『日本語の文法(上)』(国立国語研究所) 寺村秀夫『日本語の文法(下)』(国立国語研究所)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																
語彙・意味論		春学期	2 単位	藤 原 健																
<p>[講義概要・学習目標] ことばによる表現が、単語を一定の文法規則に従って文の形にまとめ上げることであれば、表現にはいくつかの単語が使われていると考えるのが普通であろう。私たちが使っている日本語も、数多くの単語を意味伝達的手段として、それを文や文章、談話の形にまとめ上げているのである。「語彙」とは、このような文章や談話を形成するための要素として用いられる単語の集まりのことであり、言語にとって文法と同等に重要な要素である。 この講義では、日常的な平易な用例をもとに、日本語の語彙の意味や構成を分類し、普段使っている日本語の語彙について、いろいろな面から考えてみたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 単語と語彙</td> <td>3. 語の種類(語種)</td> </tr> <tr> <td>1) 単語とは</td> <td>4. 語構成と造語法</td> </tr> <tr> <td>2) 語彙とは</td> <td>1) 語の構成成分</td> </tr> <tr> <td>3) 語形</td> <td>2) 造語法</td> </tr> <tr> <td>2. 語の数</td> <td>3) 造語に伴う音声変化</td> </tr> <tr> <td>1) 基礎語彙と基本語彙</td> <td>5. 語の意味</td> </tr> <tr> <td>2) 使用語彙と理解語彙</td> <td>6. 構文・文型における語彙</td> </tr> <tr> <td>3) 語数とカバー率</td> <td>7. 文章と談話における語彙</td> </tr> </table>				1. 単語と語彙	3. 語の種類(語種)	1) 単語とは	4. 語構成と造語法	2) 語彙とは	1) 語の構成成分	3) 語形	2) 造語法	2. 語の数	3) 造語に伴う音声変化	1) 基礎語彙と基本語彙	5. 語の意味	2) 使用語彙と理解語彙	6. 構文・文型における語彙	3) 語数とカバー率	7. 文章と談話における語彙
1. 単語と語彙	3. 語の種類(語種)																			
1) 単語とは	4. 語構成と造語法																			
2) 語彙とは	1) 語の構成成分																			
3) 語形	2) 造語法																			
2. 語の数	3) 造語に伴う音声変化																			
1) 基礎語彙と基本語彙	5. 語の意味																			
2) 使用語彙と理解語彙	6. 構文・文型における語彙																			
3) 語数とカバー率	7. 文章と談話における語彙																			
<p>[成績評価の方法] 定期試験(半期科目であるので、春学期1回)により評価する。 くわしくは、授業初回に説明する。</p>	<p>[参考文献] 浅野百合子(著)『教師用日本語教育ハンドブック⑥語彙』 (国際交流基金/凡人社)</p>																			
<p>[教科書] 森田良行・村木新次郎・相沢正夫(編)『ケーススタディ・日本語の語彙』 (おうふう)</p>																				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文字・表記論		秋学期	2 単位	藤 原 健
[講義概要・学習目標] 言語は、音声を媒体とした音声言語と、文字を媒体とした文字言語とに大別できる。この講義では、これらのうち後者の媒体となっている文字について、日本語の場合はどうなっているのか、内閣告示された基準をもとに考えていく。 日本語の表記に用いられる文字は数も種類も多く、また使いかたが複雑である。例えば、平仮名ひとつとっても、「こんにちわ/こんにちは」「そのとうり/そのとおり」「ぬのじ/ぬのち」のどちらの表記が正しいか、自信を持って言えるだろうか。 外国人の日本語学習者にとって、日本語の文字・表記は習得が大変で、ネックになることが多い。この講義では、日本語教育の立場から、実践の場で教師に求められる文字・表記に関する知識と、指導する際に注意しなければならない点などを考えていきたい。	[講義計画] 1. 日本語の表記法と基準 1) 漢字の表記法（「常用漢字表」） 2) 平仮名の表記法（「現代仮名遣い」） 3) 片仮名の表記法（「外来語の表記」） 4) 送り仮名の付け形 5) ローマ字の種類と表記法 2. 文字に関する知識 1) 漢字（の成り立ち） (六書、部首、画数、字形等) 2) 仮名（の成り立ち） (真名、平仮名、片仮名等)			
[成績評価の方法] 定期試験（半期科目であるので、秋学期1回）により評価する。 詳しくは、授業初回に説明する。	[参考文献]			
[教科書] 富田隆行・真田和子（共著）『教師用日本語教育ハンドブック②新・表記』（国際交流基金/凡人社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法 I		春学期集中	4 単位	有川康二
[講義概要・学習目標] どんな教授法（教え方の哲学や方法）、どんな教科書にも長所と短所がある。要は、様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することである。ここでは、日本語の初級文法に焦点を絞り、（教師にとっての）実践的な文法整理と、（学習者にとって）効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行う。 一定の制限された状況（＝教室内）や時間内（初級の集中コースとして例えば週15時間の約6か月）に、日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習を行い、「使える日本語」を身につけてもらうためには、教える側に特別な知識と技術が必要となる。何語でもそうだが、ある言葉が話せることと、その言葉を外国語として他者に体系的、説得的に教えることができる能力とは別物である。同時に、「何故、自分は外国語を学ぶのか？何故、自分は日本語を外国語として教えるのか？」という問いを問い続けなくてはならない。	[講義計画] 指示表現（こそあど） 形容詞 存在表現 時制（テンス） 保留形（テ形） 願望の助動詞ta/gar 可能の助動詞e/rare 様態・推量の助動詞soo/yooda/rasii テイル・テアル・テオク（窓が開いている・開けてある・窓を開けておく） 授受表現（やる・あげる・もらう） 態（受身・使役・使役受身） 条件表現（雨が降ったら・降るなら・降れば・降ると） 敬語（お読みになる・お読みする・なさる・いたす）			
[成績評価の方法] 出席・筆記試験	[参考文献] 三浦昭『初級ドリルの作り方』（凡人社）			
[教科書] 東京YMCA日本語学校（編）『入門日本語教授法』（創拓社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅱ（旧 日本語教授法Ⅱ（2））		通 期	4 単位	友 沢 昭 江
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日本語学習者の多様化にそって、多くの教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景を考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教材を選択する眼を持たなければなりません。さらには、市販の教科書や教材ではまかないきれない部分を補充するための自主作成教材を臨機応変に作成する能力も必要とされます。本講では具体的な教授項目を示しながら、それに適した教科書や教材にどのようなものがあるかを紹介し、その特徴の分析を行います。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>初級の教え方（発音／会話） 初級の教え方（文字／読解） 中上級の教え方（会話／聴解） 中上級の教え方（読解／情報収集） 評価と試験 いろいろな外国語教授法</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末に試験を行います。それ以外にも授業への参加の姿勢、与えられた課題にしたがってのレポート作成、および出席状況を総合的に考慮して評価を行います。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『はじめての日本語教育1：日本語教育の基礎知識』（高見澤孟、アスク） 『初級ドリルの作り方』（三浦昭、凡人社） 『教え方の基本』（日本語教育演習シリーズ⑤、丸山敬介、凡人社） 『日本語教師をめざす人の日本語教授法入門』（石橋玲子、凡人社） 『概説日本語教育』（遠藤権枝編、三修社）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>『はじめての日本語教育2：日本語教育入門』（高見澤孟） （アスク、1996）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民		秋学期	2単位	生瀬 克己
【講義概要・学習目標】 20世紀は戦争の世紀であったといわれるが、わが国の歴史をみても、20世紀の前半は特に「戦争の時代」との様相を呈している。このような戦争の時代に、「傷痍軍人」とよばれた戦争が作りだす障害者があらわれる。この「傷痍軍人」をキーワードにして、戦争の歴史をみていくと、何が見えてくるのか。それがこの講義のテーマである。	【講義計画】 戦争で障害者になるというのは、いったい、何を意味していたのか。それを歴史的にみていくと、そのようなことになるのか。それは人びとのなかに何を残したのか、また、何も残さなかったとすれば、それは何故なのか。そうしたことを考える講義にしたいと思う。			
【成績評価の方法】 各講義ごとの各学生の受けとめ方を大切にしたい。それゆえ、出席重視を前提とした評価となる。	【参考文献】 必要なときに適宜紹介します。			
【教科書】 特には指定しません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	山 川 偉 也
【講義概要・学習目標】 この講義は、「世界市民」概念形成の経緯とその歴史をたどることを通じて、学生諸君に生じた「世界市民」とは何であるかを学習し探究してもらうことを意図している。「世界市民」という言葉は、ギリシア語の「コスモポリテース」に由来している。この言葉を最初に使ったのは、シパのディオゲネスという人物である。その伝統はやがてストアの四海同胞思想を培い、ヨーロッパのヒューマニズムの流れを形成する重要な要因となっていく。この講義では、こうした「世界市民」概念の起原と歴史について総論的展望を与え、「あるべき世界市民」について考えてもらう契機としたい。	【講義計画】 資料を読むことと討論することとを交互に繰り返すことを通じて、学生の主体的学習と「世界市民」たることへの理解を深めていく。			
【成績評価の方法】 授業中に行なう小テストの結果と学期末試験の結果を総合的に判定して行なうものとする。	【参考文献】			
【教科書】 教科書なし。資料はコピーして配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民		春学期	2単位	生瀬 克己
[講義概要・学習目標] 「障害者」というのは、どのような人たちのことか。そんなことを理解するために、いろいろな「種類」や「程度」の障害者たちのことを、できるかぎり、具体的に考えていくことにしたい。	[講義計画] 障害者というのは、ごくおおざっぱにいうと、身体障害、知的障害、精神障害の三にわけることができるが、現実には、もっと、もっと多様で、複雑な存在でもある。 そこで、そうした複雑さをできるかぎり年頭におぎつつ、いろいろなタイプの障害者の相違点と共通点を理解してもらえようようにしたい。			
[成績評価の方法] 出席点を重視することと、講義への誠実な参加態度を大切にして評価したい。	[参考文献] 必要なときに適宜紹介します。			
[教科書] 特には指定しません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民		秋学期	2単位	佐藤 啓子
[講義概要・学習目標] 家族の過去の姿から未来への進化とあわせて、個人の過去（たとえば胎児の「人権」）から高齢者にいたるまでの、いわば足もとの人権問題を、家族を基点に取り上げる。 身近な問題を人権問題として取り上げることのできる法的意識と法的思考を身につけることを目標とする。	[講義計画] 第1講では家制度について取り上げる。 第2講以降では、命が誕生する前から成長、婚姻、老年期にいたるまでを時系列的に取り上げる。			
[成績評価の方法] 出席とテストによる。	[参考文献] 平湯編・明石書店『子供の人権双書1 家庭の崩壊と子供たち』 福島著・岩波書店『結婚と家族』 その他は追って紹介する			
[教科書] デイリー六法（ポケット六法は不可）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民		秋学期	2 単位	小早川 義 則
[講義概要・学習目標] 基本的人権の保障は民主主義の根幹にかかわる重要な問題であるが、その具体的内容は必ずしも分明とはいえない。本講義は、世界における人権思想の流れを概観した後、ピューリタン思想に基づき建国された米国の憲法上の人権規定の発展過程を合衆国最高裁判例を中心に辿りつつ、日本での人権問題とのかわりを明らかにする。人権の先進国アメリカでの動きを概括的にせよ把握することは、それ自体有益であることはもちろん、キリスト教精神に育まれた「世界市民」の養成という本学の精神にも適うことと思われる。	[講義計画] 講義形式になるが、2年間の米国（ニューヨーク）留学の経験を生かして、例えば、2001年の同時テロ多発の目標となった世界貿易センター周辺の地理的状況の説明など、留学体験ならではの生の経験をおりませながら、無味乾燥な内容に陥らないよう努力したい。一方通行の講義を避け、学生諸君との相互のコミュニケーションを重視したいので、講義途中での積極的で活発な質問を歓迎する。			
[成績評価の方法] 平常点およびレポート等を総合して評価する。	[参考文献] 小早川義則『ニューヨーク日記』（成文堂、2003年8月刊予定）、 藤倉皓一郎ほか編『英米判例百選[第3版]』（別冊ジュリスト139号） （有斐閣、1996年）、 その他、適宜指示する。			
[教科書] 小早川義則＝小山剛『比較人権保障論』（成文堂、2003年8月刊予定）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文学		春学期集中	4 単位	深 澤 徹
[講義概要・学習目標] 日本の古典文学の代表とされる「平安文学」は、主に女性によって書かれたことで知られている。世界の文学の歴史からすると、これは極めて異例である。 では、なぜこの当時、女性が「文学」をも含めた文化活動の主導権を握ったのか。その事情を、当時の東アジアの国際情勢の中での日本の文化的な位置付けとからめて明らかにしていきたい。結論を先取りして言えば、当時の日本は中国との関係の中で、ジェンダーとしての<女>に自らを位置付けて、文化的なアイデンティティ形成を行ったのである。 また日本の文学史の中での平安文学の特権化は、第二次大戦後の日本社会と対応して、後から「創造された伝統」（ボズボーム）なのである。そこではアメリカとの関係の中で、自らを<女>のジェンダーに位置づけようとする政治的な力学が働いていた。そうした事情を歴史社会的に跡づけていきたい。 扱うテキストは、主に「日記文学」や「源氏物語」だが、必要に応じてその周辺のテキストにも言及していくつもりである。	[講義計画] 1. 文化とジェンダー概念 2. 日本美術のジェンダー的特質 3. 戦後の日本文学観 4. 近世国学による文化概念の形成 5. 新古今時代の文化概念と天台本覚思想 6. 仮名文の無根拠性と文字の物神化			
[成績評価の方法] 2度の試験の成績と、出席状況とを合わせて評価する。	[参考文献] ハルオ・シラネ、鈴木登美篇『創造された古典』（新曜社・1999）			
[教科書] 深沢徹著『自己言及テキストの系譜学』（森話社・2002）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史学		秋学期集中	4単位	生瀬 克己
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
歴史的な物の見方や考え方の習得をめざすことになる。そこで、具体的な講義においては、それぞれの歴史の場面における「誰が」「何時」「どこで」「何を」「どのように」したか。その結果、時代や社会の何がかわったのかを理解してもらう。	具体的な講義の展開としては、日本の近代社会の成立過程、つまりは日本資本主義の形成過程を素材にして検討していくことになる。そして、この日本近代の形成過程の研究という一つの課題を前にして、いろいろな専門家によって、意見と理解が異なる理由と意味についても検討していくことにしたい。			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
講義のテーマごとに小レポートを書いてもらうなどによって、受講学生の理解と参加を参考にしつつ評価することにしたい。				
[教科書]	必要なときに適宜紹介します。			
特には指定しません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語学		春学期集中	4単位	ケビン グレグ Kevin R. Gregg
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
言語学はつぎの質問に答えようとする： 1) 言語知識とはどのようなものであるのか。 2) その知識はどのように獲得されるのか。 3) その知識はどのように使用されるのか。 いずれの場合も、研究対象は言語行動（発話）でも、言語の生産物（文学など）でもなく、こころの中に実在する知識である。言い換えれば、言語学は心理学の下位分野の一つにほかならない。 本授業では、自然科学の一つとしての言語学の研究対象や研究方法、立証的な問題を紹介し、特に上の（1）、（2）に対してどのような答えができそうなのか論じる。	I. 人間言語の位置付け： 1) 科学としての言語学：仮説・証拠・法則 2) 心理学の下位分野としての言語学：能力と運用 3) 言語における経験説と生得説 4) 人間言語と動物コミュニケーション：類似点と相違点 II. 人間言語の特徴： 1) 言語の音韻体系 2) 文の構造 III. 言語獲得			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
小テストも、定期試験も行なう。小テストの大半を受けないなら、定期試験は、受けられない。				
[教科書]	授業中にプリントを配る。			
S. Pinker 著（椋田直子訳） 『言語を生みだす本能』（上下）NHK Books 1997				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想		春学期集中	4単位	山 川 偉 也
[講義概要・学習目標] この講義は、ギリシアの哲学者たちの言葉を通じて、物事を根本的に考えるとはどういうことであるか、また、何故そのことが大切であるのかを考えてもらうことを意図している。		[講義計画] ギリシアの哲学者たちの言葉と対決することを通じて、21世紀以降に生きる「思想」のあり方を問う仕方での講義と行なう。		
[成績評価の方法] 授業中に行なう小テストと学期末試験の結果を総合的に判定して評価する。		[参考文献]		
[教科書] 『古代ギリシアの思想』（講談社学術文庫）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
自然科学		秋学期集中	4単位	明 石 吉 三
[講義概要・学習目標] 数学は文科系の学生諸君にとって軽視される傾向があるように思う。しかし、数学はあらゆる学問分野で共通に用いられ、対象の表現、分析、設計に不可欠なものである。 本講義では、大学で学ぶために必要な数学の基礎を学ぶことを目的とする。文科系学生のための数学入門というべき内容を目指したい。高校時代に学んだ数学の範囲が、学生諸君によってだいぶ異なるようである。このことを踏まえ、高校時代で学び、理解しているべき内容を中心に講義する。 講義ごとに練習問題を提示し、理解が深まるようにしたい。数学が苦手と思う諸君に有益な講義となるように心がけたい。		[講義計画] 以下の内容を講義する予定であるが、進捗に応じ調整する。 (1) 数と式 (2) 数列 (3) 個数の処理 (4) 縦列・組合せ (5) 確率 (6) 確率分布 (7) 指数関数・対数関数 (8) 微分、積分		
[成績評価の方法] 試験及び出席状況の総合評価		[参考文献] なし		
[教科書] なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
健康・スポーツ学講義		春学期集中	4 単位	高 橋 ひ と み
<p>[講義概要・学習目標] 高度経済成長により、生活は便利で豊かになった。反面、生活の機械化・省力化が進み、様々な電化製品や自家用車の普及により、日常生活において身体を動かす機会が減少し、「運動不足病」が人々の健康を蝕む結果となっている。加えて、都市化や通信・交通の発達は一々の生活のリズムを崩し、心身のストレスを増幅している。 激変する社会に適応して心身共に健康な生涯を送るためには、科学性に根ざした意図的・計画的な保健教育に基づき、家庭や地域における健康教育活動を活性化することが重要になってくる。 健康生活をおくるうえで欠くことのできない「運動」「休養」「栄養」であるが、本講義においては、生涯を通じての「生活と運動」について、特に留意して学習する。</p>	<p>[講義計画] 1. 健康の概念 2. 健康な生活と環境 3. 休養と健康 4. 栄養と健康 5. 体育とスポーツおよびレクリエーション 6. 心身の発達と体育 7. 遊びと生活 8. 家庭体育 9. 学校体育 10. 社会体育 11. 青年期・壮年期の体育 12. 体力と体育の心理 13. 運動生理 14. 社会の変化と健康生活</p>			
<p>[成績評価の方法] 定期試験および小テストにより成績評価を行う。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書] 「健康科学概論」 緒方正名編著 高橋ひとみ他著 朝倉書店</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
健康・スポーツ学講義		秋学期集中	4 単位	高 橋 ひ と み
<p>[講義概要・学習目標] 現代社会において重要な生活文化として取り入れられている「スポーツ」の歴史を、古代エジプト・ギリシャ・ローマまで遡り、政治や経済、社会環境との関連から学習する。 「スポーツ」の歴史を知ることは、「スポーツ」の現在をより理解することにつながり、過去・現在を理解することは、今後の「スポーツ」の道を教えてくれることになる。激動する現代社会の中で、「スポーツ」のあり方を自己の中で確立していくことを目的とし、その目的達成のために本授業において学んだことを役立ててほしい。</p>	<p>[講義計画] 1. 古代の体育・スポーツ ①エジプト ②ギリシャ ③ローマ 2. 中世の体育・スポーツ 3. ルネッサンス時代の体育・スポーツ 4. 近代の体育・スポーツ ①ドイツ ②イギリス ③スウェーデン ④フランス ⑤アメリカ ⑥日本 5. 現代の体育・スポーツ 6. オリンピック・パラリンピック</p>			
<p>[成績評価の方法] 定期試験・小試験およびビデオ鑑賞のコメントなどにより評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書] 高橋ひとみ（編著） 「体育・スポーツ史」 西日本法規出版</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
憲法入門		春学期	2 単位	前田徹生
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>憲法入門は、憲法学の学習を容易するため、「具体から抽象へ」、「素材（基本事例）の習得から理論的整理へ」を基本に、その前段階の憲法学習の基本となる素材（基本事例）の習得に力点が置かれる。それにより、以後の解釈学を中心とした学習での抽象的な概念整理に必要な素材（基本事例）を提供する。具体的には、憲法学での興味深い判例や基本概念の理解に不可欠な具体的事例の紹介と解説を中心とする。「生きた法」の現実を具体的に学習し、法律学の学問としての面白さを学び、法学学習への意欲を高めることが企図されている。初年度における法学学習の体系的理解を促すため、毎回出席をとる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1) 憲法ガイダンス 2) 「三菱樹脂事件」「エホバの証人輸血拒否事件」 3) 「尊属殺重罰規定違憲判決」「非嫡出子の法定相続差別事件」 4) 「麹町中学内申書事件」「津地鎮祭訴訟」「愛媛玉串料訴訟」 5) 「チャタレイ事件」「北方ジャーナル事件」「徳島市公安条例事件」 6) 「小売市場事件」「薬事法違憲判決」「森林法共有林事件」 7) 「朝日訴訟」「堀木訴訟」「旭川学テ事件」 8) 「全通中郵事件」「東京都教祖事件」「全農林警職法事件」 9) 「砂川事件」「恵庭事件」「長沼事件」「百里基地訴訟」 10) 「警察予備隊違憲訴訟」「板まんだら事件」「長沼事件」「恵庭事件」 11) 「砂川事件」「苫米地事件」「警察法改正無効事件」</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>2/3以上の出席を単位認定の基本条件とする。 定期試験と時々的小テストの結果を総合して成績評価の判断をおこなう。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>芦部信喜『憲法判例を読む』岩波書店 樋口陽一・山内敏弘・辻村みよ子『憲法判例を読みなおす』日本評論社 棟居・赤坂・松井・笹川・常本・市川『基本的人権の事件簿』有斐閣</p>			
<p>[教科書]</p> <p>別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅰ〔第4版〕』有斐閣 別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅱ〔第4版〕』有斐閣</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民法入門		春学期	2 単位	佐藤 啓子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>事例を中心に、民法の基本原則と構造を学ぶ。基礎知識を「知ること」とならんでそれを「見につける」ことで、以降の法律学学習につなげたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>事例は教科書から採ることもあるしこちらで作成することもある。大まかに言えば、法律学の体系、債権各論、総則、物権、債権総論、物権、親族法、相続法の順になる予定である（変更の可能性あり）。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験、小試験および出席とその態度による</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>大島俊之ほか・法律文化社『ショートカット民法』六法</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
刑法入門		春学期	2 単位	小早川 義 則
〔講義概要・学習目標〕 法学基礎科目の履修は「具体から抽象へ」「素材(基本事例)の習得から理論的検討へ」という段階的学習が肝要であり、一年次開講の入門科目は、基本判例の徹底的習得が課題となる。本入門では、刑法学での基本概念の理解に不可欠な興味深い素材を紹介することにより、「罪と罰」の深淵を垣間見せつつ、「生きた法」の現実とその面白さを体得させたい。刑法学への知的関心とともに法律学への学習意欲の高まりが期待されることになり、二年次以降の本格的な学習への円滑な導入の役割を果たしたいと考えている。	〔講義計画〕 講義にあわせて生の刑事裁判の傍聴を指示し、そのレポートの提出を義務付けながら、刑法学特有の世界へのスムーズな導入を図りたい。			
〔成績評価の方法〕 平常点および期末試験を総合して評価する。	〔参考文献〕 その都度、指示する。			
〔教科書〕 渡辺修『刑事法入門——刑事裁判の風景——』（新世社、2000年）、 中山研一『刑法入門（第2版）』（成文堂、2000年）				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
法職オリエンテーション		秋学期	2 単位	前田徹生
〔講義概要・学習目標〕 裁判官、弁護士、検事を始めとする法曹実務家、法務関係の公務員、実務家、政治家、地方公共団体の長、国内外で法務に携わるビジネスマン、ビジネスの世界で活躍する人々等をゲスト・スピーカーとして招き、また、ビデオ等を利用して、実社会での法実務の興味深い事例や事件を報告してもらいます。それによって、これから学習する法の世界や実社会を具体的に体得し、学習へのモチベーションを高めることをねらいとしています。	〔講義計画〕 1) ガイダンス 2) ゲスト講師との交渉の結果、講義開始時点で、一覧表を配布する。			
〔成績評価の方法〕 2 / 3 以上の出席を単位認定の最低条件とする。 時々に課すレポート等を総合して成績評価の判断をおこなう。	〔参考文献〕 その都度紹介する。			
〔教科書〕 なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	01	通 期	4 単位	軽 部 恵 子
<p>[演習概要・学習目標] 【大学での勉強方法を学ぶ】</p> <p>人間の知的活動は「聞く、話す、読む、書く」の4つに集約できます。この演習では、相手の話を正確に理解し、説得力ある意見を述べ、資料を多角的に分析し、論拠を示しながら理路整然と書くという、大学でのあらゆる勉強に必要な技術を学びます。</p> <p>受講生は高校までの勉強にとらわれず、自由な発想と旺盛な好奇心を持つことが求められます。主要新聞（朝日、読売、毎日、日経）を少なくとも1紙読み、テレビのニュース番組を毎日見て下さい。</p> <p>演習の詳細は受講生の人数やニーズ、希望に基づき決定しますが、基本的には右欄の項目を扱います。</p>		<p>[演習計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 聞く：ノートを取り方 2. 話す：発表、スピーチ、討論、ディベート 3. 読む：要旨の把握、資料の整理、資料の多角的な分析 4. リサーチ：テーマ選定、図書館の使い方、ホームページ実習、インターネット使用上の注意、適切な資料収集、 5. 書く：テーマ選定と絞り込み、アウトラインの作成、アカデミックな表現方法、適切な引用と出典、参考文献リストの作成方法 6. 個人発表 7. グループ・プロジェクト（グループ研究） <p>※ 演習の素材には、受講生に親しみやすい身近なテーマを幅広く取り上げます。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、授業参加態度（発言、質問など）、提出物（内容・期限の遵守）、各種発表を総合的に評価する。なお、度重なる遅刻や欠席、提出物の遅延・未提出など、受講生としてふさわしくない者は、直ちに除籍処分の対象となる。</p>		<p>[参考文献]・猪口孝 『社会科学入門』 中央公論社 1985年</p> <p>・佐藤義彦他 『サイエンス・オブ・ロー事始め』 有斐閣 1998年</p> <p>・高嵩幸広 『相手の頭にスナリ入る説明上手になる本』 PHP 研究所 1998年</p> <p>・W. ユーリー 『決定版ハーバード流"NO"と言わせない交渉術』 三笠書房 1995年</p> <p>・谷岡一郎 『「社会調査」のウソ：リサーチ・リテラシーのすすめ』 文藝春秋社 2000年</p> <p>・久保田裕、佐藤英雄 『知っておきたい情報モラルQ&A』 岩波書店 2002年</p>		
<p>[教科書] <生協にて一括購入></p> <p>・鷲田小彌太 『入門 論文の書き方』 PHP研究所 1999年</p> <p>・木幡健一 『「プレゼンテーション」に強くなる本』 PHP研究所 2002年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	02	通 期	4 単位	清 原 泰 司
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>この基礎演習では、これから法律学を専門的に学習・勉強していくための基礎的なトレーニングを行う。すなわち、文献を読み、その内容を理解することや様々な社会事象について自分の意見を他人にわかりやすく説明できるようにするための訓練を行う。そのような訓練を行うことにより、広い視野、バランス感覚および論理的思考力を養成を目指す。また、演習参加学生相互のコミュニケーションと法律学勉学の動機づけを図るため、ゼミ合宿や司法関係施設などの見学を行う予定である。</p>		<p>[演習計画]</p> <p>春学期は、『共生の法律学』を輪読しながら、様々な社会問題と法律との関係について考え、議論する。その際、同書に掲載の判決についても分析・検討する。秋学期は、『民法のすすめ』を輪読し、民法を勉学する意味を共に考える。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>演習参加態度・姿勢、発言、レポートなど、演習（ゼミ）への貢献度を総合評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>適宜、指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>大谷恭子著『共生の法律学』（有斐閣選書）</p> <p>星野英一著『民法のすすめ』（岩波新書）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	03	通 期	4 単位	小早川 義 則
[演習概要・学習目標]	[演習計画]			
<p>基礎演習は、高校までの学習とは異なる大学教育への適応を容易にするための小人数編成によるアカデミック・ガイダンスである。大学での勉学に必要な基礎的技術の習得を図るため、講義ノートの取り方、文献・資料等の検索方法、報告書・論文の書き方等の指導を中心とする。本演習は法学部の基礎演習であるため、できれば裁判所や刑務所の見学も実現したい。またゼミ旅行等を通じてのゼミ生相互の親睦を図るとともに、大学生活を円滑にするための側面的支援も行う予定である。</p>	<p>まず法学部志望の動機および本大学選択の理由等についての自己紹介のあと、それを文章化して提出させて講評する。その後、内外の諸事件に関するマスコミ報道——主に新聞記事——を素材にその内容を報告検討することによって徐々に社会科学ないし法学への関心を高めるとともに、判例など第一次資料の重要性を自覚させる。また希望があれば、ゼミ旅行のほか飲み会——未成年者はアルコール抜き(?)——なども実現したい。</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>出席状況など平常点を総合して評価する。</p>	<p>適宜指示する。</p>			
[教科書]				
<p>開講時に指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	04	通 期	4 単位	佐藤 啓子
[演習概要・学習目標]	[演習計画]			
<p>大学で法学を学ぶのに必要な基礎的技術の習得を目標とする。 講義ノートのとり方、資料の収集・読解、テーマの討論・報告がゼミの中心となる。</p>	<p>前期が資料の取り扱い方の基礎と登録の技術、後期はその応用編と報告の技術が中心となる。</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>出席およびその態度(レポート含む)の評価による。</p>				
[教科書]				
<p>弥永真生・有斐閣『法律学習マニュアル』 何らかの六法</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	05	通 期	4 単位	鈴 木 博 信
[演習概要・学習目標] 古典を主な材料とした要約・報告・討論。 それと平行して、文献・資料のさがしかた、レポートの 書きかた等の学習をすすめる。	[演習計画] <ul style="list-style-type: none"> ・思想・政治・歴史関係の古典を中心とする一連の テキストの要約・報告作業 ・そのため、参加によるテキストの分担をきめ、レジメを作成 してもらう。これをもとに報告と討論をかき合わせる。 ・その由、必要に応じて ミニ・レポート を書く。 			
[成績評価の方法] 出席状況、報告・討論への参加度、レポートなどによって評価。	[参考文献] 随時指示します。			
[教科書] 少なくとも5～6冊になる予定。 演習開始のさい、リストを配布するので、かならず 入手のこと。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	06	通期	4単位	瀧澤 仁唱
[演習概要・学習目標] 基礎演習は、大学教育への適応を容易にするためのアカデ ミック・ガイダンスである。大学での勉学に必要な基礎的技 術の修得を図るため、講義ノートの取り方、情報機器を利用 した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの 設定方法、文献収集の方法、討論、報告書、論文の書き方、 報告実践、文献購読等を中心とし、さらに、事情が許せば、 模擬裁判、裁判所・刑務所の見学、実践的学習等の体験教育 を行う。それにより、学習のための基本技術の修得およびモ ティベーションの向上を図る。また、少人数クラス編成によ り人間関係形成を援助し、大学生活を円滑にするための側面 支援を行う。	[演習計画] 民法および社会保障・社会福祉法を中心に行うが、演習受講者 の問題関心を中心に行う。2002年度に行ったものは、以下のとお り(順不同)である。 1. 少年法 2. ストーカー問題 3. ドメスティックヴァイオレンス 4. 児童虐待 5. 性同一性障害 6. 安楽死 7. 有事法制 8. マルチ商法 9. PL法 10. 道路交通法 11. セクシュアルハラスメント 12. 特許法 13. 著作権法 14. 死刑 15. 生活保護法			
[成績評価の方法] 出席、演習での役割およびレポートによる総合評価	[参考文献] 必要に応じ指示します。なお、どの出版社でもよいが、 「六法」は必ず持ってきてください。			
[教科書] 必要に応じ指示します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	07	通 期	4 単位	辰井 聡子
[演習概要・学習目標]	[演習計画]			
<p>大学で学ぶための基本的な技術・態度を身につけること、法学部における学習の全体像をつかむことの2点を目標とする。法学上の様々な問題を題材に、研究報告、討論、レポートの執筆などを行うことにより、法学の基礎知識、法学への姿勢を身に付けるとともに、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの設定の仕方、文献収集の方法、ディベート、報告書・論文等の書き方、口頭での研究報告、文献購読等の技術を習得する。少人数のクラスの中で教師・学生との適切な人間関係を形成していくことも目的の一つである。</p>	<p>一人一人またはグループに分かれての研究報告およびディスカッション、ディベートが中心となる。</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
主として演習時間中の学習態度による。	講義中に指示する。			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	08	通 期	4 単位	本 間 法 之
[演習概要・学習目標]	[演習計画]			
<p>基礎演習は、充実した法学部生活を送るためのアカデミック・ガイダンスです。法学部での勉学に必要な基礎的技術の修得を図るために、講義の受け方、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの選び方、文献収集の方法、ディベートの技法、レポートや論文の書き方、研究報告の仕方等についての基礎的な指導を行います。また、事情が許せば、模擬裁判、裁判所の見学などによる実践的学習等の体験も積んでもらおうと思います。さらに、学生諸君相互の間に交流の絆が生まれるよう側面から支援をすると共に、学生生活や将来の進路等に関する相談・助言も行いたいと思っています。</p>	<p>① 法学部初年度生への助言 ② 法律学習へのアプローチ ③ 初学者のための法律文献案内 ④ 「六法」の常識 ⑤ 法律用語の常識 ⑥ 法律解釈の常識 ⑦ 判例学習の常識 ⑧ 国家試験と法律の学習 ⑨ 法律答案・レポートの書き方 その他</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>平素の勉学状況（出席・課題等の達成度・受講態度）をもとに成績の評価をします。</p>	<p>講義の際に、適宜紹介します。</p>			
[教科書]				
<p>西野喜一 「法律文献学入門」 (成文堂) ¥1,800 平成15年度版の「六法」を常に携帯すること。「六法」の購入については、最初の講義の際に詳しく説明します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	09	通 期	4単位	前田徹生
[演習概要・学習目標] 基礎演習は、大学教育への適応を容易にするためのアカデミック・ガイダンスである。大学での勉学に必要な基礎的技術の修得を図るため、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの設定方法、文献収集の方法、ディベート、報告書・論文の書き方、報告実践、文献講読等を中心とし、さらに、夏休み等を利用して、裁判所の見学、情報公開法〔条例〕利用による実践的学習等の体験教育を行う。それにより、学習のための基本技術の修得およびモチベーションの向上を図る。また、少人数クラス編成により人間関係形成を援助し、大学生活を円滑にするための側面支援を行う。	[演習計画] 1) ゼミ・ガイダンス 10) 原稿の書き方(2) 2) ディベート 11) ノートのとり方 3) ディベート 12) 報告/討論 4) ディベート 13) 報告/討論 5) ディベート 14) 報告/討論 6) ディベート 15) 報告/討論 7) 図書館ガイダンス① 16) 報告/討論 8) 図書館ガイダンス② 17) 報告/討論 9) 原稿の書き方(1) 18) 報告/討論 19) 報告/討論 20) 報告/討論			
[成績評価の方法] 単位認定の最低条件：三分の二以上の出席。報告を行うこと、レポートの提出。成績は、これらの成果を総合して判定する。	[参考文献] 演習の中で必要に応じて提示する。			
[教科書] 特に、なし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習 (社会学的想像力の育成)	10	通 期	4単位	松村昌廣
[演習概要・学習目標] この演習は大学で社会科学を専攻しようとする学生に自己啓発的な学習意欲を持たせ、学問的な方向付けをすることを目的とする。このため主として古典書を読ませながら、「人間生活と社会」について考察させ、現代社会の諸問題を初歩的に研究させる。 1 導入 1) 大学の意義と大学生活の仕方について 2) 社会学専攻の意義と当基礎演習の目的及び進め方について 3) 成績の評価方法(出席・報告討論・レポート) 2 課題問題 1) 人間とは何か(人間観) 2) 人間社会とはどんな仕組みになっているのか(社会観) 3) 政治とはなにか(政治観) 4) 学問とは何をどうすることなのか(学問観)	[演習計画] 3 課題 1) カール・セーガン「コスモス」(朝日書店) 2) 時実利彦「心と脳の仕組み」(講談社学術文庫) 3) シューマン「国際政治(上巻)」(東大出版会) 4) プラトン「国家」(岩波文庫) 5) アリストテレス「ニコマコス倫理学」(岩波文庫) 6) 「孔子・孟子」の孔子の部分(中央公論社「世界の名著」) 7) 同書、孟子の部分 8) 「老子・荘子」の老子の部分(同上) 9) 同書、荘子の部分 10) ホッブス「リバイアサン」(同上) 11) ルソー「社会契約論」(岩波文庫) 12) トクビル「アメリカの民主主義」(「世界の名著」) 13) 「ベンサム・ミリ」のベンサムの部分(同上) 14) 同書、ミルの部分 15) マルクス・エンゲルス「ドイツ・イデオロギー」(岩波文庫)			
[成績評価の方法] 1 出席 40% 2 レポート 60% (4点 X 15回) 評価の目安 80~100% A 70~79% B 60~69% C	[参考文献]			
[教科書] 各自、「講義計画」で指定してある書籍を準備しなさい。古典作品は様々な出版社から発売されている。内容を確認したうえで、指定の出版社以外のものでも何ら問題はありませぬ。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	1 1	通 期	4 単 位	吉 見 研 次
[演習概要・学習目標] この演習は下記テキストを使用し、内容的には民法を中心とする民事法の基礎を理解することが主たる学習目標となる。 ところで、法学部の基礎演習は、大学での学習のためのアカデミック・ガイダンスという共通の性格を有している。この授業でも、学習を進めるさいの文献・資料の検索収集、学習成果をまとめるレポートの執筆、口頭での報告や討論等を実際に体験する中で、大学生に不可欠な種々の学習能力・技術を体得してもらつつもりである。学内の図書館の見学を授業の一環として実施するほか、学内外の諸施設の見学利用等も考えたい。なお、受講学生の履修計画をはじめ学習全般に対する指導助言も行う予定である。	[演習計画] 春学期は毎回、主に数名の学生がテキストの内容を順次紹介報告する形式で授業を運営していくが、図書館等の見学に時間を割くこともある。小論文の書き方を指導した上で、実際に書く作業を課すこともある。別に討論の時間等も設けたいと考えている。 夏休み中および秋以降の課題として、複数の文献資料を読んだ上でレポートを書いてもらう予定である（レポートのテーマは各自が選択する）。秋学期の途中から、毎回、数名の学生が各自のレポートの概要を口頭で発表する機会を設ける。それを元に最終的にレポートを完成してもらうことになる。			
[成績評価の方法] 出席状況、報告やレポートの内容等を総合的に判断して評価する。	[参考文献] 授業時間中に適宜紹介する。			
[教科書] 野村豊弘『民法法入門（第2版補訂版）』（有斐閣）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	1 2	通 期	4 単 位	林 錫 璋
[演習概要・学習目標] 大学での勉学に必要な基礎的技術の修得を図るため、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料などの検索、図書館利用の方法、文献収集の方法、ディベート、報告書・論文の書き方、文献講読などを中心とした実践的学習を行う。	[演習計画] 1、宇奈月温泉事件 2、信義誠実の原則 3、意思能力なき者の行為 4、権利能力なき社団の成立要件 5、海の一部と私所有権 6、ホステスの保証 7、男女別定年制 8、動機の錯誤 9、詐欺による善意の第三者の登記要否 10、強迫による意思表示 11、民法94条2項の類推適用 12、民法109条と相手方の善意 13、代理ありと信じさせることと本人の無過失の必要性 過失の要否 14、民法110条の「第三者」 15、民法761条と表見代理 16、親権者の代理権濫用 17、他人の権利の処分と追認 18、自己の物の時効取得			
[成績評価の方法] リポート・出席状況を加味して総合評価する。	[参考文献] 谷口知平・甲斐道太郎（編）『新版 現代民法入門』（法律文化社） 判例 六法（三省堂）			
[教科書] 星野英一ほか編・別冊ジュリスト民法判例百選Ⅰ（第五版）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																								
憲法Ⅰ		秋学期集中	4 単位	前田徹生																								
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>憲法は、大別すると「基本的人権」と「統治機構」の2分野で構成されている。憲法Ⅰは、とりわけ「基本的人権」を中心に講義をおこなう。講義は、国家試験の受講者にも有益であるように解釈論を核とし、また、理解を早めるために個別分野ごとに具体的な事件・判例を紹介し、可能な限り憲法訴訟論的アプローチを加味しながら憲法学説の体系的な解説を試みる。さらに、今日もはや憲法理解に不可欠となっている欧米との比較憲法的視点を織り交ぜながらできる限り多角的な視野から考察をしていく。</p> <p>初年度の法学部の基本科目であり、法学学習の体系的理解を保障する意味もあり、講義においては、座席は指定され、出席は、毎回とる。ここで、脱落することのないように、1年生諸君の頑張りを期待したい。</p>	<p>【講義計画】</p> <table border="0"> <tr> <td>1) 日本国憲法成立史</td> <td>13) 表現の自由</td> </tr> <tr> <td>2) 基本的人権の享有主体</td> <td>14) 集会・結社の自由</td> </tr> <tr> <td>3) 基本的人権の私人間効力</td> <td>15) 被疑者・被告人の権利</td> </tr> <tr> <td>4) 基本的人権と公共の福祉</td> <td>16) 職業選択の自由</td> </tr> <tr> <td>5) 特別な法律関係における人権</td> <td>17) 財産権の保障</td> </tr> <tr> <td>6) 法の下での平等</td> <td>18) 生存権</td> </tr> <tr> <td>7) 個人の尊重と幸福追求権</td> <td>19) 教育を受ける権利</td> </tr> <tr> <td>8) プライバシーの権利</td> <td>20) 労働基本権</td> </tr> <tr> <td>9) 自己決定権</td> <td>21) 国務請求権</td> </tr> <tr> <td>10) 思想・良心の自由</td> <td>22) 参政権</td> </tr> <tr> <td>11) 信教の自由・政教分離の原則</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12) 学問の自由</td> <td></td> </tr> </table>				1) 日本国憲法成立史	13) 表現の自由	2) 基本的人権の享有主体	14) 集会・結社の自由	3) 基本的人権の私人間効力	15) 被疑者・被告人の権利	4) 基本的人権と公共の福祉	16) 職業選択の自由	5) 特別な法律関係における人権	17) 財産権の保障	6) 法の下での平等	18) 生存権	7) 個人の尊重と幸福追求権	19) 教育を受ける権利	8) プライバシーの権利	20) 労働基本権	9) 自己決定権	21) 国務請求権	10) 思想・良心の自由	22) 参政権	11) 信教の自由・政教分離の原則		12) 学問の自由	
1) 日本国憲法成立史	13) 表現の自由																											
2) 基本的人権の享有主体	14) 集会・結社の自由																											
3) 基本的人権の私人間効力	15) 被疑者・被告人の権利																											
4) 基本的人権と公共の福祉	16) 職業選択の自由																											
5) 特別な法律関係における人権	17) 財産権の保障																											
6) 法の下での平等	18) 生存権																											
7) 個人の尊重と幸福追求権	19) 教育を受ける権利																											
8) プライバシーの権利	20) 労働基本権																											
9) 自己決定権	21) 国務請求権																											
10) 思想・良心の自由	22) 参政権																											
11) 信教の自由・政教分離の原則																												
12) 学問の自由																												
<p>【成績評価の方法】</p> <p>2/3以上の出席を単位認定の最低条件とする。加えて、時々に行う小テストおよび定期試験を総合して判断する。</p>	<p>【参考文献】</p> <p>佐藤功『日本国憲法概説』（全訂第五版）学陽書房 樋口陽一『憲法』（改訂版）創文社 佐藤幸治『憲法』（第三版）青林書院 野中・中村・高橋・高見『憲法Ⅰ』（第三版）有斐閣 粕谷友介・向井久了編『青林法学双書 憲法』（第二版）青林書院</p>																											
<p>【教科書】</p> <p>芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法（第三版）』岩波書店</p>																												

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																				
憲法Ⅱ		春学期集中	4 単位	松田聰子																				
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>憲法Ⅱでは、いわゆる統治機構を学ぶ。憲法は人権保障の法であり、そのための統治構造を定めた法であることは、憲法Ⅰですでに学んでいる。憲法Ⅱでは、日本国憲法における国民主権、権力分立、地方自治、財政、平和主義に関する原理と解釈の習得を目標にする。できるだけ具体的な事件や判例を通して体系的な理解を深めていく。また、わが国の憲法解釈に不可欠な比較法からのアプローチも試みる。なお、国家試験の問題などにも適宜ふれていく予定である。</p>	<p>【講義計画】</p> <table border="0"> <tr> <td>(1)憲法と立憲主義</td> <td>(11)権力分立⑤司法権の限界</td> </tr> <tr> <td>(2)法の支配と法治主義</td> <td>(12)権力分立⑥違憲立法審査制の性格</td> </tr> <tr> <td>(3)国民主権①国民主権・人民主権</td> <td>(13)権力分立⑦違憲立法審査制の限界</td> </tr> <tr> <td>(4)国民主権②選挙制度</td> <td>(14)権力分立⑧司法制度の課題</td> </tr> <tr> <td>(5)国民主権③国民投票制度</td> <td>(15)地方自治</td> </tr> <tr> <td>(6)国民主権④天皇制</td> <td>(16)財政制度</td> </tr> <tr> <td>(7)権力分立①国会の地位と機能</td> <td>(17)憲法保障</td> </tr> <tr> <td>(8)権力分立②議院内閣制</td> <td>(18)平和主義</td> </tr> <tr> <td>(9)権力分立③解散制度</td> <td>(19)戦後改憲論の系譜</td> </tr> <tr> <td>(10)権力分立④司法権の意味と範囲</td> <td></td> </tr> </table>				(1)憲法と立憲主義	(11)権力分立⑤司法権の限界	(2)法の支配と法治主義	(12)権力分立⑥違憲立法審査制の性格	(3)国民主権①国民主権・人民主権	(13)権力分立⑦違憲立法審査制の限界	(4)国民主権②選挙制度	(14)権力分立⑧司法制度の課題	(5)国民主権③国民投票制度	(15)地方自治	(6)国民主権④天皇制	(16)財政制度	(7)権力分立①国会の地位と機能	(17)憲法保障	(8)権力分立②議院内閣制	(18)平和主義	(9)権力分立③解散制度	(19)戦後改憲論の系譜	(10)権力分立④司法権の意味と範囲	
(1)憲法と立憲主義	(11)権力分立⑤司法権の限界																							
(2)法の支配と法治主義	(12)権力分立⑥違憲立法審査制の性格																							
(3)国民主権①国民主権・人民主権	(13)権力分立⑦違憲立法審査制の限界																							
(4)国民主権②選挙制度	(14)権力分立⑧司法制度の課題																							
(5)国民主権③国民投票制度	(15)地方自治																							
(6)国民主権④天皇制	(16)財政制度																							
(7)権力分立①国会の地位と機能	(17)憲法保障																							
(8)権力分立②議院内閣制	(18)平和主義																							
(9)権力分立③解散制度	(19)戦後改憲論の系譜																							
(10)権力分立④司法権の意味と範囲																								
<p>【成績評価の方法】</p> <p>小テストと学期末に行う論述試験で判断</p>	<p>【参考文献】</p> <p>佐藤功『日本国憲法概説』学陽書房 佐藤幸治『憲法』青林書院</p>																							
<p>【教科書】</p> <p>芦部信喜『憲法 第三版』岩波書店</p>																								

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民法 I		秋学期集中	4単位	林 錫 璋
[講義概要・学習目標] 民法の全体像を俯瞰した上で、民法の意義および民法の指導原理に移り、民法第一編の総則として、権利の主体（自然人、法人）、権利の変動原因（法律行為、時効）などの規則について、通説・判例の立場から、その基本構造と各種の法的概念及び制度を論述し、実務・理論・立法の動向にも触れ、これを解説し、民法の基本理念及び共通原則、所定の諸制度に対する正確な理解を期するとともに、これをもって民法全体の学習への導入とする。	[講義計画] 1、民法の位置づけ 3、民法の基本原則とその修正 5、権利能力と行為能力 7、団体と法人格 9、権利の客体 11、法律行為の有効要件 13、心理留保と虚偽表示 15、詐欺と強迫 17、本人と代理人の関係 19、表見代理 21、条件と期限 2、民法の法源 4、民法の適用のしくみと解釈 6、成年後見制度 8、法人の設立と解散 10、法律行為の解釈 12、意思の欠缺と意思の瑕疵 14、錯誤 16、代理のしくみとはたらき 18、代理人と相手方との関係 20、無効と取消 22、時効制度			
[成績評価の方法] 出席、小テスト、レポート及び期末試験による総合評価	[参考文献] 谷口知平・甲斐道太郎編『新現代民法入門』（法律文化社） コンサイス 判例六法（三省堂）			
[教科書] 安井 宏他著『ブリエール民法1 民法入門・総則』（法律文化社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民法 II		春学期集中	4単位	林 錫 璋
[講義概要・学習目標] 物権法は、財産の利用に関する生活関係を規律する法であり、民法第2編がこれを定めている。物権とは何かから始め、物権全体に通じる考え方について講義する。物権変動は、物権法の中で最も重要な問題であり、物権変動の過程を法的に分析し、物権総論の理解を深める。そして、所有権を中心に占有権、用益物権まで講義する。さらに、めまぐるしい判例が変更され、学説も新しい展開が見られる抵当権を中心とする担保物権（法定担保、約定担保、非典型的担保）などについても、学説・判例を分析し、諸制度に対する正確な理解を高める。	[講義計画] 1、物権法の基礎知識 3、公示の原則と公信の原則 5、不動産の二重譲渡 7、民法177条の「第三者」の範囲 9、所有権の意義と内容 11、共有 13、用益物権 15、抵当権の設定 17、抵当権の物上代位 19、抵当権の処分 21、根抵当権 23、法定担保物権 2、物権の効力 4、意思表示による物権変動 6、法律行為と登記 8、動産に関する物権変動 10、相隣関係 12、建物の区分所有 14、占有権 16、抵当権の効力 18、共同抵当 20、抵当権と利用権の関係 22、質権 24、非典型的担保			
[成績評価の方法] 出席、小テスト、レポート及び期末試験による総合評価	[参考文献] 甲斐道太郎＝石田喜久夫編『新民法教室I（第2版総則・物権）』（法律文化社） 判例 六法（三省堂）			
[教科書] 松井 宏興他著『ブリエール民法II 物権・担保物権法』（法律文化社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民法Ⅲ		春学期集中	4 単位	清 原 泰 司
[講義概要・学習目標] この科目は、債権総論を対象とする。その内容は、債権とは何か(債権の意義)、債権の目的、債権の効力、責任財産の保全、多数当事者の債権関係、債権の移転(譲渡)および債権の消滅である。講義では、最初に債権と物権との相違について触れる。債権とは何かを理解するためには、物権との相違を理解しておくことが必要だからである。そのうえで、債権総論における各種の法制度が現実にとどのように機能し、どのような法的問題点があるかについて、学説・判例を検討しながら説明する。	[講義計画] 下記のテーマについて、具体的事例を交えながら講義する。 1 債権とは?— 物権との相違 2 債権の目的 3 債権の効力—強制履行・債務不履行 4 責任財産の保全—債権者代位権、債権者取消権 5 多数当事者の債権関係—分割債務・不可分債務・連帯債務・保証債務 6 債権の移転—債権譲渡・債務引受・ 7 債権の消滅—弁済・代物弁済・供託・相殺			
[成績評価の方法] 小テストと期末テストの結果を総合評価する。	[参考文献] 適宜、指示する。			
[教科書] 野村豊弘ほか著『民法Ⅲ 債権総論 [第2補訂]』(有斐閣Sシリーズ)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民法Ⅳ		秋学期集中	4 単位	清 原 泰 司
[講義概要・学習目標] この科目は、債権各論を対象とする。その内容は、債権の発生原因である契約、事務管理、不当利得および不法行為である。このうち、契約は、契約総論と契約各論に分け、前者では契約全体に通ずる契約総則を、後者では、民法典所定の13種類の契約のうち、比較的重要度の高い契約(売買、消費貸借、賃貸借など)を中心に講義する。なお、契約各論では、消費者契約法や借地借家法などの特別法にも言及し、一般法である民法との関係を説明する。また、不法行為についても、自動車損害賠償責任法、製造物責任法や国家賠償法などの特別法にも言及する。	[講義計画] 下記のテーマについて、具体的事例を交えながら講義する。 1 債権各論の対象 2 契約総論—契約の意義・契約の成立・契約の効力・契約の解除 3 契約各論—売買・消費貸借・賃貸借・請負・委任・寄託・組合・和解など 4 事務管理 5 不当利得 6 不法行為—不法行為の意義・一般の不法行為・特殊の不法行為・不法行為の効果			
[成績評価の方法] 小テストと期末テストの結果を総合評価する。	[参考文献] 適宜、指示する。			
[教科書] 藤岡康宏ほか著『民法Ⅳ 債権各論 [第2補訂]』(有斐閣Sシリーズ)				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
民法V		秋学期集中	4単位	佐藤 啓子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>民法第四編「親族法」・第五編「相続法」を取り上げる。 法職につく人もつかない人も、将来必ず関係するであろうテーマである。 基礎知識の習得と、法学的思考の応用に限らず、ごく一部であるが法社会学、法史学（いわゆる基礎法）の必要な分野であるため、そのようなさまざまな分野のごく小さな入門も兼ねざるを得ない。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>条文に沿って進める。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、その態度、小テストと期末テストで評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>棚村ほか・青林書院『家族法』 有斐閣『家族法判例百選』 六法</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
刑法I		春学期集中	4単位	辰井 聡子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>刑法各論を学ぶ。殺人罪、窃盗罪といった、現行の刑罰法規が規定している罪の解釈・適用につき、判例・学説を学んだ上で、現代においてどのような行為をどう処罰するのが適切であるかを考える。犯罪の基本類型を規定する刑法典の解釈を中心に、経済犯罪、環境犯罪などの現代的な犯罪、立法の動向などにも触れながら、犯罪への対応について総合的に考察することにしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>第1回目に、刑法各論を学ぶための前提として、刑法の意義、罪刑法定主義、罪数論の基礎を講義する（以上については、刑法IIの指定教科書を用いる）。第2回目以降の講義計画は第1回目に配布する。基本的には、教科書の順序に沿って学習を進める。受講者には、教科書の該当箇所を予習してることが望まれる。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末の筆記試験による。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義中に指示または配布する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>町野朔・中森喜彦編『刑法2 各論（有斐閣アルマ）』（有斐閣） 別冊ジュリスト 刑法判例百選II各論〔第5版〕（有斐閣） （2003年初春刊行予定）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
刑法Ⅱ		秋学期集中	4単位	辰井 聡子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>故意・過失の内容、共犯成立の要件等、全ての犯罪に共通する要素を定める刑法総則の解釈を中心に、犯罪処罰の基本的な考え方を学ぶ。刑法Ⅰの受講を前提とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>基本的に教科書の順序で行う。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末の筆記試験による。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義中に指示または配布する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>町野朔・中森喜彦編『刑法Ⅰ 総論〔有斐閣アルマ〕』（有斐閣） 別冊ジュリスト 刑法判例百選Ⅰ〔第5版〕（有斐閣） （2003年初春刊行予定）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I a ドイツ語 I b	0 1 0 1	通 期 通 期	2 単 位 2 単 位	高 田 里 恵 子
[講義概要・学習目標] このクラスは、I a・I bの両方を高田が担当する。 語学の習得のためには地味な努力が必要である。楽しい「会話」をするためには、まずは単語や文法を暗記しなくてはならない。暗記と繰り返し練習は語学の基礎である。楽しいだけでは語学は身につかない。この点は、じゅうぶん覚悟しておくこと！ 一年間でドイツ語の文法を一通り学ぶというのが目標である。予習の必要はないが、授業についていくためには復習は欠かせない。	[講義計画] 1. ドイツ語の発音 2. 動詞の現在人称変化 3. 名詞の格と性 4. 前置詞 5. 語法の助動詞 6. 分離動詞・再帰動詞・非人称動詞 7. 過去の事柄をどう表現するか 8. 関係代名詞 9. 受動態 10. 接続法			
[成績評価の方法] 前期と後期の最後に試験を行なう。また平常点も重視するが、それはたんに出席することではなく、授業に積極的に参加することを意味している。授業中の態度や勉強意欲を正当に評価できるように、授業のやり方や内容、テストの問題を工夫するつもりである。	[参考文献] 授業中に指示する。			
[教科書] 山本 淳 著 新・じゃあ、またあした！（CD付き） 同学社刊 2500円（予定価格）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I a	0 2	通 期	2 単 位	田 中 秀 穂
[講義概要・学習目標] 初めてドイツ語を学ぶ学生を対象として、初級文法の講義と演習を行なう。 アルファベットや発音から始めて、基本的な文法事項を習得していく。 ドイツ語には、主語によって動詞の形が変わる「人称変化」や、名詞や冠詞などが文中での統語的役割によって変化する「格変化」、独特の語の並べ方など、さまざまな規則があり、覚えなくてはならないことも少なくはない。しかし、積極的に授業に取り組み反復練習を心がけ、ドイツ語の表現のしかたを確実に身につけてもらいたい。	[講義計画] 0. アルファベット、発音 1. 動詞の現在人称変化 2. 名詞の性と格、定冠詞と不定冠詞 3. 不規則動詞、副文 4. 定冠詞類と不定冠詞類 5. 助動詞 6. 分離動詞、zu 不定詞句 7. 過去人称変化、現在完了形 8. 前置詞、再帰動詞 9. 形容詞 10. 比較級と最上級、命令形 11. 関係代名詞 12. 受動態 13, 14. 接続法			
[成績評価の方法] 前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、a を担当する教師と b を担当する教師が相談し総合的に決定する。 詳細は、I a（初級文法）のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。	[参考文献]			
[教科書] 著 者： 大岩 信太郎 書 名： 新正書法による 快速ドイツ文法（14 課） 発行所： 朝日出版社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I b	02	通 期	2 単位	村 田 佳 隆
[講義概要・学習目標] ドイツ語学習の土台をつくるがこの授業の目標である。発音の練習をまずタップリとこなし、最低限の文法知識を学びながら、いろいろな文章にふれることによって、日常のドイツ語で用いられる基本的な表現や語彙を身につける。 毎回の出席と完全な準備、そしてなによりも授業中の緊張が要求される。	[講義計画] 1. 発音 2. 動詞の現在人称変化 3. 冠詞 4. 前置詞 5. 形容詞 6. 分離動詞 7. 助動詞 8. 再帰動詞 9. 過去・完了 10. zu不定詞 11. 関係代名詞 12. 受動			
[成績評価の方法] 前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。詳細はI a (初級文法)のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。	[参考文献]			
[教科書] Schlecht、三室 『ドイツ・プラクティッシュ・ロート』				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I a	01	通 期	2 単位	赤 瀬 雅 子
[講義概要・学習目標] フランス語は、あまたの言語の中で、発音がもっともむつかしい言語のひとつである。また、動詞の活用も多様である。しかし、現代思想・現代文学理論の先端の書は、フランス語で書かれたものが目立つ。また国際会議の公用語も英語とフランス語である場合が多い。また広く現代文化を考える上での必須の言語である。読み、書き、話し、聴くことのすべてに上達しようという意欲は大変によいが、焦るばかりで、すぐに効果があがらなると勉学を放棄する場合もでてくる。 それを防ぎ、着実に実力をつけるような勉学の方法に中心をおいて学習を進める。学生の質問は多岐にわたるが、できる限り、個々の学生が実力を身につけられるように、質問に答えてゆきたい。	[講義計画] 先ず、発音の基礎をじっくりと学ぶ。これを身につけるには、かなりの時間がかかる。ついで、フランス語では重要な動詞の活用を、直説法を中心として学ぶ。命令法・分子法も修得し、易しい文章の読み書きの基本を体得する。ついで条件法・接続法を学ぶ。このころには前置詞も理解できるので、時には作家や研究者の書いた名文にも接し、自ずからフランス語が身につくようにする。			
[成績評価の方法] 学期末の試験が重要であることはいまでもないが、出席率をよくすることは、実力をつけるためにも大切であるので、出席率をも重視する。これに口頭試問・小テストの成績を加えて総合的に評価する。	[参考文献] 田島宏編 『フランス語 話す』 白水社			
[教科書] 京都大学フランス語教室編 『新初等フランス語教本《文法編》』 白水社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I b	01 02	通 期 通 期	2単位 2単位	本 多 雄一郎
[講義概要・学習目標] この授業では、フランス語の「話す」「聞く」という面に重点をおき、ビデオ教材を並用しながら、口頭による会話表現の練習を行ない、フランス語の運用力を養成していく。	[講義計画] <前期> 4月中は主に発音練習を行なうが、それと同時にあいさつやかんたんな自己紹介などの表現を覚えて、フランス語の感覚を身につけ、ビデオで聞きとりの訓練も行なう。5月以降、フランス語の動詞活用を中心に表現を増やしていき、様々な状況における会話を学んでいく。 <後期> 自分の紹介に加えて、日常生活を表現したり、相手にたずねたりするよう表現など、様々な構文を学んでいく。			
[成績評価の方法] 前・後期試験の成績と平常点で総合評価する。	[参考文献]			
[教科書] 『ミニ・ドラ・コンセルシ(ユーロ版)』 大阪日仏センター＝マリアンス・フランスズ 朝日出版社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I a	02	通 期	2単位	一ノ瀬 真美
[講義概要・学習目標] はじめてフランス語を学ぶ学生を対象に、フランス語のしくみをきちんと理解し、一年間で基礎をしっかりと身に付けることを目標としています。授業では学んだ文法事項についてはかならず応用練習をしますので、実習のつもりで積極的な姿勢で授業に臨むことを期待します。理解できないことは授業中に質問してその場で解決しましょう。なお、辞書はかならず持参すること。	[講義計画] 最初の授業ではフランス語の発音練習と挨拶表現を学び、その後は以下に示す文法事項をテキストに出てくる順で習得していきます。 1.名詞の性と数；不定冠詞；定冠詞；部分冠詞 2.être, avoir, -er動詞, -ir動詞, その他の主な動詞の直説法現在 3.否定形；命令形；疑問文 4.形容詞の一致；指示形容詞；疑問形容詞；所有形容詞 5.前置詞 à, de と定冠詞の結合 6.補語人称代名詞；人称代名詞強勢形；代名動詞 7.複合過去；近接過去；近接未来 8.使役動詞；受動態；現在分詞			
[成績評価の方法] 前期と学年末の定期試験と授業中の小テスト、課題などの平常点で総合的に評価します。	[参考文献] 辞書については最初の授業で指示します。			
[教科書] 藤田裕二、藤田知子、Sylvie GILLET 共著 「新・東京ーパリ、初飛行」(駿河台出版社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I a	03	通 期	2 単位	ロー・ヤマサキ・アニー
<p>[講義概要・学習目標] 会話的スケッチ文を読みながら、正しい発音、文法、動詞活用などに注意しながら、今の、生きた、正しい口語表現を学習します。さらに簡単な構文を用い、実用的表現も、知った内容のある表現もできるように、口頭×筆記による練習を、積極的に行います。</p>	<p>[講義計画] 会話表現として、必要不可欠な文法を最低限学習します。とくに、動詞の現在形で、それを中心としたフレーズの色々なパターンを用いて、様々な有用な日常表現が可能であることが分かるはかりで、発信できる授業をします。毎回の小テストは、スケッチ文の一部と動詞活用の暗記が中心です。会話の練習法も、教師からのフランス語による質問に学生がフランス語で答えるという「一方通行」ではなく、学生の方から、用意してきたことをフランス語で質問し、教師もフランス語で答える、</p>			
<p>[成績評価の方法] 出席、平常点と期末試験で評価します。毎回、小テスト×小レポートを行います。</p>	<p>[参考文献] 『クラウン仏和辞典』 三省堂</p>		<p>という相互形式で授業をすすめます。</p>	
<p>[教科書] プリントを使用。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I b	03	通 期	2 単位	一ノ瀬 真美
<p>[講義概要・学習目標] はじめてフランス語を学ぶ学生を対象に、平易で自然なフランス語の会話文を通してフランス語のしくみをきちんと理解し、一年間で基礎をしっかり身に付けることを目標としています。授業ではテキストを読んで理解するだけでなく、テープを活用して耳と口を使ってもフランス語になじみ、また、学んだ文法事項についてはかならず応用練習をしますので、実習のつもりで積極的な姿勢で授業に臨むことを期待します。理解できないことは授業中に質問してその場で解決しましょう。なお、辞書はかならず持参すること。</p>	<p>[講義計画] 最初の授業ではフランス語の発音練習をおこない、その後は以下に示す文法事項をテキストに出てくる順で習得していきます。 1. 名詞の性と数；不定冠詞；定冠詞；部分冠詞 2. être, avoir, -er動詞, -ir動詞, その他の主な動詞の直説法現在 3. 否定形；命令形；疑問文 4. 形容詞の一致；指示形容詞；疑問形容詞；所有形容詞 5. 前置詞 à, de と定冠詞の結合 6. 補語人称代名詞；人称代名詞強勢形；代名動詞 7. 複合過去；近接過去；近接未来 8. 使役動詞；受動態；現在分詞</p>			
<p>[成績評価の方法] 前期と学年末の定期試験と授業中の小テスト、課題などの平常点で総合的に評価します。</p>	<p>[参考文献] 辞書については最初の授業で指示します。</p>			
<p>[教科書] 阿南婦美代、エマニュエル・リゴー、ブリュノ・ジャクタ 共著 「アン・パロール」(早美出版社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語 I a	01	通 期	2 単位	松 平 マリア
スペイン語 I b	01	通 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】 この講義の目的はスペイン語の文法と日常会話でよく使われるスペイン語の表現を覚えることです。講義の特徴はスペイン、アルゼンチンとラテンアメリカのスペイン語を比べながら主にスペインのスペイン語を勉強することです。		【講義計画】 授業は三つの部分に分けられる：1) 文法の説明；2) 文法のテーマを応用しながら日常会話の表現を覚えること；3) 会話の学習。学生は勉強した表現を使いながら仲間たちと話す。		
【成績評価の方法】 評価は春学期と秋学期のそれぞれの試験により、または学生の授業中の参加により行われます。		【参考文献】		
【教科書】 田村美代子 マリア・テレサ・バルデス Miyoko Tamura + María Teresa Valdés スペイン語でなんと言いますか？ ¿Cómo se dice en español? 出版社 Geirin-Shobo 定価 (本体 1800 円+税)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語 I a	02	通 期	2 単位	フェリペ・カルバホ
【講義概要・学習目標】 この授業では基礎会話を中心にして、スペイン語の基本的な文法を修得することに重点を置く。従って動詞の直接法の用法や、命令法などは特に重視しておく必要がある。教課書のスペイン語を録音したカセットがあるのので、参考として併用されたいでしょう。		【講義計画】 易しい会話のために、必要な発音と文法を学ぶ。教課書の第一課から第十九課迄履習予定である。主に規則動詞と不規則動詞の直接法である。後半では特に動詞の過去と未来、比較級と最上級等を重点的に行なう。毎回、スペイン語作文の宿題あり。		
【成績評価の方法】 試験と授業中の態度・応答・宿題出席で決める。		【参考文献】 授業で紹介		
【教科書】 フェリペ・カルバホ『HABLAMOS ESPAÑOL I』 大盛堂書房				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語 I b	0 2	通 期	2 単位	フェリペ・カルバホ
[講義概要・学習目標] この授業では基礎会話を中心にしてスペイン語の基本的な文法を修得することに重点を置く。従って動詞の直接法の用法や命令法などは特に重視しておく必要がある。教課書のスペイン語を録音したカセットテープがあるので参考として併用されたし。	[講義計画] ・易しい会話のために必要な発音と文法を学ぶ。 教課書の第一課から第十九課迄履修予定である。主に規則動詞と不規則動詞の直接法である。後半では特に動詞の過去と未来・比較級と最上級等を重点的に行なう。毎回スペイン語作の宿題有り。			
[成績評価の方法] 試験と授業中の態度・応答・宿題、出席で決める。	[参考文献] 授業で紹介			
[教科書] フェリペ・カルバホ『HABLAMOS ESPAÑOL I』 大蔵堂書房				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語 I a イタリア語 I b	0 1 0 1	通 期 通 期	2 単位 2 単位	啜 絵 里
[講義概要・学習目標] イタリア語は音楽的な言葉だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目を口をフルに使ってほしい。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できるのであって、その国の文化を理解せずに言葉は学べない。授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。一年間で基本語彙と初級文法を習得することを目標とするが、文法力が話す力、聞く力と常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。授業の進行は、なるべく本学のイタリア語 I の授業担当者と、足並みを揃える予定である。	[講義計画] [前期] 自分のことを話す 1. イタリア語のイントネーション、性数の概念 2. 規則動詞、名詞、形容詞 3. 疑問詞との組み合わせによる作文・会話練習 [後期] 相手にたずねる 1. 不規則動詞、補助動詞 2. 目的語人称代名詞 3. 近過去の働き			
[成績評価の方法] 平常点。試験は授業中に数回行う。受講生各個の能力を総合的に判断して判定する。	[参考文献] 授業には小学館の『伊和中辞典』を携帯すること。			
[教科書] 武田好・横山千里著 『Andiamo in Italia! (アンディアアモ・イン・イタリア)』 南欧図書				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語 I a イタリア語 I b	0 2 0 2	通 期 通 期	2 単位 2 単位	和 栗 珠 里
[講義概要・学習目標] イタリア語は音楽的な言葉だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々になじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくよう演習形式をとる。基本語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。	[講義計画] 【前期】 自分のことを話す 1. イタリア語の発音、性数の概念 2. 規則動詞、名詞、形容詞 3. 疑問詞との組み合わせによる作文・会話練習 【後期】 相手にたずねる 1. 不規則動詞、補助動詞 2. 目的語人称代名詞 3. 過去の表現(近過去・半過去) 4. 再帰動詞			
[成績評価の方法] 平常点(授業における積極性、反応度、理解度)を基本とする。また、年に数回の筆記試験を授業中に行う。これらの材料から受講生各々の能力を総合的に判断して評価を決定する。	[参考文献] 授業には、小学館の『伊和中辞典』を携帯すること。			
[教科書] 武田好・横山千里著 『Andiamo in Italia! (アンディアーモ・イン・イタリア)』 (南欧図書)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ロシア語 I a		通 期	2 単位	国 松 夏 紀
[講義概要・学習目標] これまでロシア語を見たり聞いたりしたことがありますか？ おそらく多くの皆さんにとって、そもそもロシア文字が未知のものでしょう。ところがこの「ロシア文字一覧表」は英語26文字を「アルファベット」と呼ぶのと同様に「アルファベット」なのです。ただし、より正確には、つまりロシア語風には「アルファヴィート」であり、33文字あります。英語より7文字多いだけのロシア文字とそれらが表す音（やはり独特の音がいろいろあります）を練習して覚えることから始めます。そして、初級の基本的文法事項を何とか一通り学習して、辞書を使いこなせるようにするのが目標ですが、それよりはむしろ感覚的にロシア語に慣れることが肝要です。教室でも家でも恥ずかしがらずに、大きな声で発音練習しましょう。	[講義計画] 教科書は全部で10課しかありません。冒頭の「文字とその読み方」を1課分としても11課です。単純に計算すると、2回の講義につき、少なくとも1課仕上げると、春学期と秋学期で案に1冊修了することになるはずです。 しかし、なかなか計算通りいかないのが、教室での語学学習です。適度に緩急をつけながら、重要なところはじっくりと、とばせるところはとばしていきます。 一つだけ、予め注意しておきたいのは、教科書には書き込みをしないこと。A5判の余白の多い教科書で、つい「読みカナ」をふったり、練習問題の解答を書き込んだりしたくなるのですが、それはノートにすること。教科書をきれいなままにしておき、常に「練習」できるようにしておくことも、意外と語学上達早道なのです。			
[成績評価の方法] 出席を何よりも重視します。とにかく、たとえ予習が間に合わなくともめげずに出てきてロシア語に触れること。その上で、春学期末と秋学期末の試験で総合的に評価します。	[参考文献] 辞書に関しては、最初の時間にいろいろ紹介します。といっても、英語やドイツ語、フランス語の辞書に比べても数は限られており、選択の幅は狭くなっています。 その他、「参考文献」は、「新旧ロシア情報」も含めて随時授業中に紹介して行きます。			
[教科書] 諫早勇一・服部文昭・大平陽一著 『セメスターのロシア語』 白水社刊				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ロシア語 I b		通 期	2 単位	杉 野 ゆ り
<p>[講義概要・学習目標] ロシア語はロシア連邦に住む一億五千万人の言葉であり、またC I Sの国々でもお互いのコミュニケーションの手段として使用されています。大阪から一番近いロシアの極東の町ウラジオストクは飛行機で約2時間のところにあります。この近くで遠い隣国を理解する第一歩としてロシア語の勉強を始めましょう。</p> <p>チャレンジ精神のある学生の参加を期待します。</p> <p>ロシア語はやりがいと味わいのある言語です。みなさんが知っているラテン文字とは違ったロシア文字の形を楽しみながら、発音を覚え、次第にロシア語文法の奥深く入っていきましょう。積極的に授業に参加して、五感をフルに使いながら、根気強く授業についてきてください。</p>	<p>[講義計画] 最初に、ロシア文字とその読み方を学びます。 教科書は18課から成ります。前期で9課、後期で残り9課の予定です。 教科書に書かれているのは初級文法の中でもっとも基本的な事柄です。予習復習をしっかりしながらすべて覚えるつもりで勉強してください。</p>			
<p>[成績評価の方法] 平常点（出席回数、小テスト）と前後期の定期試験の点数によって評価します。</p>	<p>[参考文献] 露和辞典必携</p>			
<p>[教科書] 中島由美他著 「ロシア語へのパスポート」（白水社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a	0 1	通 期	2 単位	林 宏作
中国語 I b	0 1	通 期	2 単位	
<p>[講義概要・学習目標] 中国語の誤報と発音の基礎訓練、特に漢語ローマ字の習熟及び基本文型・語彙の構造などの理解から日常会話を習得し、下記の教科書を用いながら講読する。なお定期的に発音の矯正を個別に行うので、受講生はこれを必ず受けること。また週二回の授業は同じ担当者が文法と講読を同時に行うため、クラスを間違えないように特に注意してください。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期> ①現代中国語概説 ②漢語ローマ字 ③拼音と四聲 ④教科書第1課から第10課までの講読</p> <p><後期> 教科書第11課から第20課までの講読</p>			
<p>[成績評価の方法] 出席率と前・後期の試験による。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書] 興水優（監修）『基礎中国語会話』改訂版、東方書店</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a	0 2	通 期	2 単位	わ 汪 ギョウキョウ 暁 京
中国語 I b	0 3	通 期	2 単位	
	0 2	通 期	2 単位	
	0 3	通 期	2 単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>「発音よければ、半ばよし」——この言い方は同じ漢字を使う日本人にとってなおさらの真実だ。初めての中国語、何と言っても発音のマスターが一番重要だ。拼音（ローマ字による発音表記）を頼りに、繰り返し声を出して練習し、正確、きれいな発音を覚えること。その次、最も基本的な文法を中心に、易しい日常会話と平易な中国語の文章を習得。使うテキストはCD付きで、ビデオも対応している。そして、テキストの本文からビデオまで習う言葉と文型がいろんな形でリピートされている。一年間の勉強を通して、「耳」と「口」が中国語に慣れるよう努力すること。</p> <p>また、中国語の勉強と共に、中国の文化、社会、風俗、習慣などについて紹介する。</p>	<p><前期> 導入 発音段階 ①拼音（ローマ字による発音表記） ② 四声（中国語のイントネーション） ③ 総合練習 本文の勉強 第1課～第6課 2コマ一課のペースで行う （文法と言葉の使い方の説明、本文の説明、並びに朗読、翻訳、練習）</p> <p><後期> 本文 第7課～第16課 前期と同じ</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
定期試験、平常点、出席などによる総合評価。	<p>「デイリーコンサイス中日辞典」 杉本達夫・牧田英二・古屋昭弘 [共編] 三省堂 1998)</p>			
[教科書]				
「一年生のころ」（ビデオで学ぶ中国語 改訂版） （CD付き）（朝日出版社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a	0 4	通 期	2 単位	サ 左 コウ 虹
中国語 I b				
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>中国語を勉強する人にとって最も大切なのは発音である。語学の学習は一般の授業と違い、単なる講義を聴くだけではなく、真似したり、考えたり、口にしたりする訓練が必要とされる。一年間の学習を通じてローマ字方式中国語の発音を習得し、基礎となる文型や語法を学び、基本技能の「聞く」「話す」「読む」「書く」といったバランスのとれた表現力が身に付く様に講義を進めたいと考えている。</p>	<p>前期：（中国語はじめの一步） 第1課～第13課</p> <p>後期：（中国語さらなる一步） 第1課～第12課</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
前後期定期試験のほか、出席、小テストなどを平常成績として総合評価する。	後期に辞書を購入すること。			
[教科書]				
（前期）中国語はじめの一步 竹島金吾監修 白水社 （後期）中国語さらなる一步 竹島金吾監修 白水社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a 中国語 I b	05 05	通 期 通 期	2 単位 2 単位	ジョ 徐 コク'ヨク 国 玉
【講義概要・学習目標】 この授業では中国語の発音、基本語彙、基本文法事項を習得するように徹底した反復練習を行う。1年間で中国語学習の堅い土台を作ることがこの授業の目標である。	【講義計画】 【前期】 第1課 ~ 第10課 【後期】 第11課 ~ 第22課			
【成績評価の方法】 出席状況、平常の小テストの評点と 前期、後期のテストの評点で総合的に評価する。	【参考文献】 『精選日中・中日辞典』(東方書店)			
【教科書】 『基礎レッスン中国語』(徐国玉/山田忠司 著 同学社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
朝鮮語 I a		通 期	2 単位	ユン 尹 ヨンファ ヨンファ 英 和
【講義概要・学習目標】 この講義では、大韓民国で使われる朝鮮語(以下韓国語)を中心に授業を進めます。文法(とくに語順)において酷似の日本語と韓国語も、発音においてはその違いが目立ちます。韓国語の発音を日本語の発音と比較しながら、繰り返し発音の練習をします。それとともに、韓国語の文字(ハングル)も学習します。また、日常生活でよく出会う挨拶表現など、実際の会話で意思疎通に役立つ表現を中心に勉強していきます。	【講義計画】 前期：第1課～第8課 後期：第9課～第19課			
【成績評価の方法】 出席状況など授業への積極的参加及び期末試験によりに評価します。	【参考文献】			
【教科書】 長谷川由起子『コミュニケーション韓国語(会話編1)』(白帝社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
朝鮮語 I b		通 期	2 単位	青 野 正 明
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この授業は朝鮮語の入門である。文字・発音や基礎的な文法を学び、簡単な文章の読解へと進みたい。「朝鮮語 I b」では、文法と簡単な読み書きに重点を置いて、現代の韓国で使われている言葉を中心に学習する。北朝鮮で使われている言葉で韓国と異なるものについても、適宜紹介していく予定である。</p> <p>隣国の言葉を全く知らないということは、よくよく考えてみれば奇妙なことではないか。今、私たちが朝鮮語を学ぶことは、自分たちの生き方としても非常に意義のあることだといえる。1年間を終えた段階では、基礎的な会話ができ、また簡単な文章も読めるだろう。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>春学期：第 1 部 第 1～6 課 第 2 部 第 1 課</p> <p>秋学期：第 2 部 第 2～10 課</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、受講態度、期末試験を総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>辞書は授業で紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>金東漢・張銀英『韓国語レッスン 初級 I』 スリーエーネットワーク、1999年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
インドネシア語 I a		通期	2単位	小池 誠
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この授業は、基礎的なインドネシア語の習得を目的としている。毎回の授業では、可能な限りインドネシア語を聞き、話すことによって、インドネシア語の発音と表現に受講者の耳と口を慣らすようにしたい。</p> <p>インドネシア語の文法にはあまり細かくこだわることなく、日常の様々な場面でどのようにインドネシア語を使って、コミュニケーションするか、そのために必要なもっとも基礎的な言葉と表現を学んでいきたい。</p> <p>授業の合間にインドネシアの音楽を聞き、また映画などを見ることで、インドネシアの言語と文化をより身近に感じるようにしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>あいさつ、自己紹介からはじめて、買い物や食事などでつかう表現まで毎回の授業で学んでいく。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席と授業中の学習態度、学習課題への取り組み、および各学期末におこなう試験の成績を総合的に評価する</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>武部洋子『旅のゆびさし会話帳② インドネシア』 情報センター出版局</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
インドネシア語I b		通 期	2 単位	北野 正徳
[講義概要・学習目標] <p>この授業では基礎的なインドネシア語の習得を目的としている。その内容は、発音、語彙、文法、そして簡単な会話や作文を含んでいる。具体的には、通年の授業を通じて一冊の教科書をできるだけ丁寧に学習してゆきたい。従って、受講者は、授業をできるだけ途切れることなく出席することが望まれている。授業内容自体は、特に複雑でなく、大量の予習・復習も必要ではない。また、インドネシア語は、他の外国語に比べて、学習しやすい言語でもある。しかし、クラス全体の授業進行を円滑にするために、受講者は、できるだけ継続して授業に参加して、常に授業内容を把握していることが望まれている。</p>	[講義計画] <p>一冊の教科書を一年間掛けて丁寧に学習してゆく。 前期は、発音、語彙習得、簡単な文法や弘文の習得が主である。後期には、より複雑な文法を学んでゆく。後期授業の文法学習の際には、特に継続して授業に出席することが望まれている。大量の予習や宿題は出す予定はない。できるだけ授業中の練習で学習項目をカバーしてゆきたい。そのために、授業中の練習には積極的な参加が望まれている。</p>			
[成績評価の方法] <p>出席、授業中の参加態度、各期末の書き取りなどを総合評価する。なかでも、継続して出席して、授業中の練習に積極的に加わることを最も重視する。授業中に練習を行うので、途切れ途切れに出席すると他の受講者の迷惑になる。できるだけ継続して出席して、クラス全体の授業進行が充実するように力を合わせてもらいたい。</p>	[参考文献]			
[教科書] <p>柴田紀男『エクスプレス インドネシア語』（白水社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語 I a		通 期	2 単位	藤 原 健
[講義概要・学習目標] <p>大学に入って、これから学部の留学生として生活していくことになるわけだが、何かにつけていやでも日本語の実力不足を痛感していくのではないだろうか。 日本語の能力が不十分なまま大学に入り、その後、いろいろなことに忙しくて、日本語そのものの勉強まで手が回らなくなるのではないかと思う。授業においても、テキストなどに出てくる日本語と、回りで見聞きする日本語の差に驚くことになるのではないだろうか。実際、日本人はあのような日本語の語彙や表現を、日本語学校の先生たちのような発音で口にするのではないのである。 この授業では、『インタビューで学ぶ日本語』を使用して、普通の日本人の日本語を聞き取る練習をする。これは、他の聞き取り用の教材のようにわざわざ録音されたものではなく、ネイティブの日本人にインタビューしたそのままの録音教材である。</p>	[講義計画] <p><聴解練習> (1)インタビューのテープを聞く ・会話の大意をつかむ ・シートの問いに従い、聞き直す ・設問に答える 答える ・ストラテジーなどについて考える ・スクリプトを見ながら再度聞く (2)会話の内容について話し合う ・タスクシートの設問を利用する</p>			
[成績評価の方法] <p>出席を重視し(年授業回数の3分の2以上が必要)、評価は進度に応じて年に数回の平常試験(4回程度)を行う。 詳しくは、授業初回に説明する。</p>	[参考文献] <p>堀歌子・三井豊子・森松映子(共著)『インタビューで学ぶ日本語』(凡人社)</p>			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語 I b		通 期	2 単位	吉 岡 美 穂
【講義概要・学習目標】 日本語の学習はコミュニケーションのための重要な道具となるが、それだけでは日本の文化を理解することはできない。このクラスでは、言語のしくみと働きに焦点をあて、さまざまな角度から「ことばと文化」のおもしろさを学んでいく。	【講義計画】 異文化に関する記事や文献を読み、理解し、エクササイズを用いて異文化理解を深めていく。			
【成績評価の方法】 ・出席・テスト・宿題・レポート・授業への参加度、態度。	【参考文献】 ・「異文化コミュニケーション入門」池田理知子固有斐閣アルマ） ・辞書を必ず持参すること。			
【教科書】 資料は教員が準備する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 II a	0 1	通 期	2 単位	高 田 里 恵 子
【講義概要・学習目標】 大人になってから学んだ語学を「話せる語学」にするためには、「書く」練習が欠かせない。この授業は、ごく簡単なドイツ語作文をし、その文を繰り返し口に出して読んでみるという練習しながら、会話力を伸ばすことを目標とする。まず行なってもらいたいのは、大きな声でドイツ語を話すということである！授業には、配布したプリントの他、独和辞典と、初級の授業のときに使用した文法の教科書（何でもよい）を必ずもってくる。	【講義計画】 1. 初級文法の復習 2. sein と werden 3. 日常生活のなかの助動詞 4. 接続法を使いこなしてみよう 5. ドイツ語と数字表現			
【成績評価の方法】 前期と後期の最後に試験を行なう。成績（可否）は II b の担当の教員と相談のうえ決定される。また平常点も重視するが、それはたんに出席することではなく、授業に積極的に参加することを意味している。授業中の態度や勉強意欲を正當に評価できるように、授業のやり方や内容、テストの問題を工夫するつもりである。	【参考文献】 授業中に指示する。			
【教科書】 教科書は使用しない。プリントを配布するので失わないこと。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱb	01	通 期	2 単位	坂 昌 樹
【講義概要・学習目標】 できるだけドイツ語を楽しんでみたいと思います。テキストは指定せず、毎回教員が用意します。ですから原則として、この授業に予習はいりません。ポップスなどを聞いたり、インターネットなどを利用してドイツ語を学ぶことができれば良いと考えています。それでも学習の重点は、ドイツ語の文章を読み解くことにあります。その際、ドイツ語Ⅰで習ったことの復習だけでなく、ドイツの人々の感情表現を少しでも理解できるようところがたいと思います。わからないことがあったら何でも質問してください。わからないことがあったり、あるいはドイツ語Ⅰで習ったことを忘れてしまっても、そのことを低く評価したりはしません。低く評価するのは、それらを知らないままにしておく態度です。積極的な授業参加を望みます。	【講義計画】 ドイツ語のポップス（フォークソング、ロックなど）を聞きます。 Die Prinzen, Jule Neigel, Marius Müller-Westernhagen, Herbert Grönemeyer, Nena などの歌手を予定しています。			
【成績評価の方法】 毎回の授業で出席をとり、前期と後期の終わりに試験を行います。また、授業への積極的な参加も評価されます。ただし全体の成績評価は、Ⅱaを担当する教師と相談して総合的に決定します。	【参考文献】 独和辞典とドイツ語Ⅰa（文法）の教科書を毎回持参してください。 連絡先： （研究室）アンデレ館7階725室 （tel）0725-54-3131（内線）3725 （Email）ban@andrew.ac.jp 面談： 在室中は、随時可能です。 ※ドイツ語の講義すべてとの関連で、夏休みに4週間、ドイツの大学（フライブルク大学）でドイツ語を勉強する語学研修を国際センターが募集しています。とても楽しい研修です。みなさんも一度、ドイツへ行ってみませんか？			
【教科書】 なし。毎回のテキストは教員が用意します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱa	02	通 期	2 単位	田 中 秀 穂
【講義概要・学習目標】 初級ドイツ語の授業で身につけた知識をもとに、自分でドイツ語の文を作ってみよう。文法事項ごとに構成された明快なテキストを使用し、やさしく基本的な短いドイツ語を書き表わせるようになることを目標とする。 練習問題には、必要な単語やヒントが添えられており、和独辞典は不要であるが、独和辞典は必ず持ってくること。 文法事項などで忘れたことや分からないことがあれば、そのつど説明するので、表現してみようとする姿勢を大切にして積極的に参加してほしい。	【講義計画】 【前期】 動詞の現在人称変化、冠詞と名詞の格変化、冠詞類、副文、前置詞、分離動詞、未来、過去など 【後期】 現在完了、形容詞、受動、zu不定詞句、比較、語法の助動詞、関係代名詞、再帰動詞、接続法など			
【成績評価の方法】 前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。詳細は、Ⅰa（初級文法）のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。	【参考文献】			
【教科書】 著 者： 大岩 信太郎 書 名： はじめての独作文〔改訂新書法版〕 発行所： 朝日出版社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語Ⅱb	02	通 期	2 単位	村 田 佳 隆
[講義概要・学習目標] とにかく復習から始めよう。一年次で学ぶ内容は、おそらく消化不良になっているであろうから、もう一度der, des, dem, denからしっかりと整理しなおすことを最初の目標とする。 毎回の出席と完全な準備、そしてなによりも授業中の緊張が要求される。	[講義計画]			
[成績評価の方法] 前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。	[参考文献]			
[教科書] 牧野、宇野 『モーツァルトとドイツ語を』 第3書房				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱa	01	通 期	2 単位	一ノ瀬 真 美
[講義概要・学習目標] すでにフランス語Ⅰでフランス語の初歩を学んだ学生を対象に、まとまった量のやさしい読みものを読みながら、フランス語になじみ、より深い読解力を養いつつ、テキストを応用してフランス語での表現能力を身に付けることを目標とする授業です。必要に応じて、随時、文法事項のまとめやすでに学んだ基礎事項の復習をおこないその応用練習をします。また、テキストを声に出して読むことで、フランス語の発音やリズムが身に付くでしょう。なお、辞書はかならず持参すること。	[講義計画] 既に学んだ事項を必要に応じて復習しながら、以下に挙げる文法事項を中心に習得していきます。 1. 単純未来；前未来；半過去；大過去 2. 接続法現在；接続法過去 3. 条件法現在；条件法過去 4. 指示代名詞；所有代名詞；関係代名詞 5. 中性代名詞；副詞的代名詞 6. 等位節；様々な従属節；間接疑問 7. 不定詞の複合形；現在分詞の複合形			
[成績評価の方法] 前期と学年末の定期試験と授業中の小テスト、課題などの平常点で総合的に評価します。	[参考文献]			
[教科書] Sempé / Goscinny 著、窪川英水 編 「渚のプチ・ニコラ」 (芸林書房)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱb	01	通 期	2 単位	本 多 雄一郎
【講義概要・学習目標】 この授業では、フランス語の文法を復習しつつ、確実に身につけてから、基本的な会話表現を習得することが目標です。	【講義計画】 <前期> フランス語Iで学んだことを確認するために、今一度初歩の会話表現をおさらいしたあとで、テキストやオーディオを活用して「話す」「聞く」という能力を養成していく。 <後期> 基本的な表現を前期と同様に学んでいくが、自分の考えや感想をフランス語で表現することにも挑戦していきたい。			
【成績評価の方法】 前・後期試験の成績と平常点で総合評価する。	【参考文献】			
【教科書】 『もっと話したくなるフランス語』 岩間直文著 朝日出版社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱa	02	通 期	2 単位	オリヴィエ ビルマン Olivier Birmann
【講義概要・学習目標】 実際に「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」作業を行い、前年度に学んだことを見直しながら知識を広め、理解を深めます。道具は使ってはじめて手になじみ、改善すべき点も明らかになります。フランス語の文法感覚も、フランス語をどんどん使うことによって、磨かれていくはず。なお教科書と連動して、フランス語Ⅱa クラス用の文法、作文、読書の練習のプリントを作ります。	【講義計画】 <前期> 自分について述べる、人を紹介する、評価する、提案する、承諾する、拒否する、執拗に求める、電話をする、情報を求める、会う約束をする 等等 <後期> 過去の物語、出来事の展開を話す、出来事の背景について説明する、事柄を確かでないこととして伝える、事柄を確かなこととして伝える 等等			
【成績評価の方法】 成績評価は、つぎの3つの合計により与えられます。 ① 出席 ② 提出物 ③ 試験	【参考文献】 『東京ーパリ、フランス語の旅』、著者：藤田裕二、藤田幸子、S. Gillet、駿河台出版社、1997年 『フランス語がわかる』、著者：曾我祐典、白水社、1995年 『コレクション フランス語 3 文法』、著者：西村牧夫、曾我祐典、白水社、1990年			
【教科書】 「ALPHABETIX」 著 者： Patrice Leroy, Adriana Rico-Yokoyama 発 行： 日仏出版センター 発売元： 三修社、2000年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語Ⅱb	02	通 期	2 単位	ロー・ヤマサキ・アニー
<p>[講義概要・学習目標] 勉強の仕方は一年目と同じですが、普通のフランス人が、今、言っている様々な書物や雑誌、新聞から、色々なテーマの文章をあつめ、その内容を理解しながら、それらに関して、会話でもあつかえるように、フランス語の実力を養います。</p>	<p>[講義計画] 現代文を自由によめるたけでなく、リスニング発信できるように、普通の表現に必要な文法をさらに学びます。特に動詞の活用は、一年次でマスターしたところの、現在形とそれを用いた基本的な、様々な表現法以外に、さらに、標準的フランス語の読み書き、会話に必要で、役立つ範囲にひらけて学習します。辞書は、ゆかにクラスに持参すること。</p>			
<p>[成績評価の方法] 出席、平常点と期末試験で評価します。毎回、小テストや小レポートを行います。</p>	<p>[参考文献] 『クラウン仏和名典』三省堂</p>			
<p>[教科書] プリントを使用。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語Ⅱa	01 02	通 期 通 期	2 単位 2 単位	ゴンザレス ダリオ GonzalesDario
<p>[講義概要・学習目標] (学習目標) 基礎的な知識を応用して、実践的に使えるスペイン語を目指す。 (講義概要) 英語に次いで世界の数多い国々で使用されているスペイン語は近年世界経済の動向・国際交流、観光の面から使用する機会が増えている現状から、まずコミュニケーションの出来るスペイン語を目指し講義を進める。 本講義では、視聴覚教材を活用することにより、スペイン語の全体的な流れを理解すると同時にヒヤリングの力をつける。又、旅行した時に直面する事柄を考えて学習していく。 学生諸君には、常時、西和和西1冊になった小辞典の携帯を必要とする。語学マスターの鍵は、授業に対する積極的な参加、恥を捨ててまず人前で話す、根気強く口頭反復練習をする等の各自の努力によると考える。</p>	<p>[講義計画] (前期) 1・空港にて 2・タクシー乗り場 3・ホテルのフロント 4・銀行での両替 5・聖家族教会 (後期) 1・交通機関(地下鉄、バス) 2・試着と買物 3・レストランでの注文 4・郵便物の発送 5・薬局、病院にて</p>			
<p>[成績評価の方法] 定期試験と出席状況との総合評価とする。</p>	<p>[参考文献] 宮城 昇(編)「スペイン語 ミニ辞典」(白水社) ヘレン・デイヴィーズ(著)「絵で見る辞典スペイン語入門」(洋販出版)</p>			
<p>[教科書] 辞書の携帯を必要とする。 プリント配布。</p>				

初
修
02~

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語Ⅱb	01 02	通 期 通 期	2単位 2単位	ゴンザレス ダリオ GonzalesDario
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>(学習目標) スペイン語の基本的な知識を応用する力を伸ばしコミュニケーションの出来るスペイン語を目指す。</p> <p>(講義概要) 本講義では、前年次に継続し 基本的な知識を習得しながら、読解力、会話力を身につける。その為には、単語を調べる地道な作業を怠ってはいけない。更に、基本文型を応用する力を伸ばす為にも語彙数を増やすように努力することは大切である。以上の観点から 西和和西Ⅰ冊になった小辞典の携帯は必要である。又、人に聞き取れる声で話すことは 会話の基本になるので、学生諸君には、口をしっかりと開けるように心掛けて欲しい。</p> <p>国際的な感覚や、視野を広める為にもスペインや、中南米諸国の生活習慣や文化についても適宜触れて幅広く学習を進めていきたいと考えている。</p>	<p>(前期)</p> <p>スペイン語圏の生活習慣を紹介しながら日常会話の表現力をつける。 訪問先での応対、自己紹介の仕方、食事の仕方、フィエスタでの対応(誕生日、クリスマス)等。</p> <p>(後期)</p> <p>音楽、ビデオ、童話、雑誌などの補助教材を活用することにより、スペインや中南米の文化に触れながらヒヤリング力、読解力を身につける。</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
定期試験の成績と出席状況との総合評価とする。	<p>宮城 昇(編)「スペイン語 ミニ辞典」(白水社)</p> <p>ヘレン・ディヴィーズ(著)「絵で見る辞典スペイン語入門」(洋販出版)</p>			
[教科書]				
辞書の携帯を必要とする。 プリント配布。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語Ⅱa	01	通 期	2単位	和栗 珠里
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>イタリア語Ⅰで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがⅡでの課題である。実践的な演習形式を多くとりいれて聞く力・話す力の向上をめざすのはⅠと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文章を読んだり書いたりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。教科書だけでなくプリントも活用し、多面的にイタリア語に取り組んでもらう。</p> <p>なお、この講座はイタリア語Ⅱb(01)と対であり、授業もこれと連携しながら進めていく。</p>	<p>[前期] イタリア語の構造のまとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イタリア語Ⅰの復習と実践演習 2. さまざまな過去時制(半過去・大過去・遠過去) 3. 命令法 <p>[後期] 表現力と実践運用能力の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 未来形と条件法 2. 接続法 3. 演習 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>平常点(授業における積極性、反応度、理解度)を基本とする。また、年に数回の筆記試験を授業中に行い、適宜課題の提出も求める。これらの材料から受講生各個人の能力を総合的に判断して評価を決定する。</p>	<p>授業には、小学館の『伊和中辞典』を必携すること。</p>			
[教科書]				
白崎容子著 『イタリア語速習15日』 (創拓社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語Ⅱb	01	通期	2単位	暇 絵里
[講義概要・学習目標] イタリア語Ⅰで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがⅡでの課題である。実践的な演習形式を多くとりいれて聞く力・話す力の向上をめざすのはⅠと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文章を読んだり書いたりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。教科書だけでなくプリントも活用し、多面的にイタリア語に取り組んでもらう。 なお、この講座はイタリア語Ⅱb(01)と対であり、授業もこれと連携しながら進めていく。	[講義計画] 【前期】 イタリア語の構造のまとめ 1. イタリア語Ⅰの復習と実践演習 2. さまざまな過去時制(半過去・大過去・遠過去) 3. 命令法 【後期】 表現力と実践運用能力の充実 1. 未来形と条件法 2. 接続法 3. 演習			
[成績評価の方法] 平常点(授業における積極性、反応度、理解度)を基本とする。また、年に数回の筆記試験を授業中に行い、適宜課題の提出も求める。これらの材料から受講生各個人の能力を総合的に判断して評価を決定する。	[参考文献] 授業には、小学館の『伊和中辞典』を必携すること。			
[教科書] 白崎容子著 『イタリア語速習15日』 (創拓社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語Ⅱa	02 03	通 期 通 期	2単位 2単位	鳥 居 正 雄
[講義概要・学習目標] Ⅰで扱いきれなかった文法の残りを最後までやります。基本的な動詞の変化が十分に頭に入っていない諸君がかなりいるようなので、動詞の変化を中心に練習問題を使った演習をみっちりやります。会話も基本的には作文なので文章がひととおり作れるようになることを目標にします。語学はすべて継続することが大事なので毎時間必ず出席することが必要です。それで、出席したりしなかったりが目に余るような諸君には、こちらから出席辞退を要求することがあります。また、aクラスだけ出席してbクラスは出席しないとか、再履修だからという理由で出席しない怠け者の学生や、授業中に携帯で遊んだり寝たりするような集中力の無い学生には単位を与えるつもりはありません。	[講義計画] 【前期】 文法説明を最後まで行います。 各課ごとに練習問題をして理解を完全なものにします。 動詞の変化を徹底的に反復して覚えてもらいます。 カンツォーネ、歌曲やオペラ等を鑑賞し、それらを通してイタリア的な感性に対する理解を養います。 【後期】 文章読解しながら各法の使い方にたいする理解を深めます。 文章を音読しながら発音とアクセントの正確さを高めます。 映画やビデオを鑑賞し、それらを通してイタリア的な物の考え方に対する理解を深めてもらいます。			
[成績評価の方法] 単元毎の練習問題の提出と期末のテストとレポートの点数、それに授業中の問題に対する答えの出来ぐあいを総合して評価します。	[参考文献] どのような分野でも良いので、イタリアに関する自分の関心のある分野の本を図書館や書店で出来るだけたくさん読むこと。			
[教科書] Corrado Conforti, Linda Cusimano, <i>Linea diretta 1</i> . Guerra Edizioni (Perugia)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語Ⅱb	02 03	通 期 通 期	2単位 2単位	米 山 喜 晟
【講義概要・学習目標】 一年生で学んだイタリア語の知識を土台にして、イタリア語の文法を最後まで仕上げるのがこの授業の目的である。やはりせっかく大学で学んでいるのだから、イタリア語文法の全体像が見えるところまで、また一応イタリア語が使えるところまで、授業を進めたい。	【講義計画】 前半で教科書の12課までを終える。そこまでは一年生で学んだことの復習が大半の時間を占めるであろう。後半で、それ以後の部分、最後の20課まで進み、イタリア語文法を完了する。 とにかく毎週の範囲の復習、予習を怠らないこと。一日最低一時間以上はイタリア語を声を張り上げて読み、例文と動詞の変化を暗記すること。全文を暗記すればイタリアで生活するのに困らない。一応イタリア語ができるはずだ。			
【成績評価の方法】 2回の試験の成績の平均によって評価する。ボーダーライン上の点数は、出席点を加味する。	【参考文献】 坂本鉄男著『イタリア語の入門』（白水社） その他一応きちんと叙述されているものなら何でも良いから、まともなイタリア語の文法書を一部常に手元において、授業を理解するための参考にすると同時に授業の進行に併せて読み進み、期末までに読み終えることが望ましい。そうすれば、さらにははっきりとしたイタリア語文法の全体像が把握できて、諸君の頭脳の中で、一生の財産となって残るであろう。			
【教科書】 開講時に指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ロシア語Ⅱa		通 期	2単位	国 松 夏 紀
【講義概要・学習目標】 「ロシア語Ⅰa・Ⅰb」で、文字と発音を含めて、一通りの基礎文法を学んだ諸君を対象とし、ロシア語の文章を読み、それを基にして話したり、聞いたりする練習もします。少し間が空いて、もう忘れたこともあるでしょうし、まだ充分学んでいなかったこともあるでしょう。それらを復習し、補いながら、こまめに辞書を引きつつ読んでいきましょう。それと同時に、テープなどで、音を聞き、自分でも精一杯声を出して滑らかに読めるように練習してください。 地道に努力を重ねると、ロシア語を通して、思わぬ豊かなロシア世界が眼前に開けることでしょう。	【講義計画】 教科書を開くと「まえがき」に次のように書かれています。 「初級の後半くらいから中級の学習者むけに、やさしくて、短くて、面白い読み物を集めました」と。そして「内容は笑話、ロシアの地理、気候、料理、スポーツ、伝説、工芸、ジェスチャー、日露交流史、短編小説などいろいろです」。 巻末には「単語集」もついていますので、どんどん読んでいきましょう。でも、念のためこまめに辞書を引くことも忘れないように。			
【成績評価の方法】 必ず予習をして、出席すること。やむを得ず予習が間に合わなくとも、とにかく教室に出てくること。その「平常点」と、春学期末・秋学期末の試験により、総合的に評価します。	【参考文献】 授業中随時、広くロシア関係の話題を提供するとともに、「参考文献」も紹介するつもりです。			
【教科書】 笹尾道子・藤井悦子・杉山秀子・滝川ガリーナ著 『やさしいロシア語読本』 大学書林刊				

初
修
02~

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ロシア語Ⅱb		通 期	2単位	杉 野 ゆ り
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>前年度学んだ初級文法より詳しく体系的な文法を勉強しながら、読解力を付けるのが目的です。しっかりと身に付いた読解力は会話と作文の場面に於いてもその真価を発揮してくれるはずです。</p> <p>辞書を引いて怠りなく予習すること。CDを繰り返し聞いてロシア語の文章をしっかりと覚えること。一生懸命勉強すれば、ロシア語はあなたの生涯の友人となるでしょう。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>教科書は13課からなります。教科書に沿って前期で7課、後期は残り6課の予定です。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点（出席回数、小テスト）と前後期の定期試験の点数によって評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>露和辞典必携</p>			
<p>[教科書]</p> <p>諫早勇一他著「セメスターのロシア語読本」（白水社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅱa	01	通 期	2単位	林 宏作
中国語Ⅱb	01	通 期	2単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>中国語Ⅰで修得した発音と語法をふまえて、語彙をふやし、読解力のスピードアップを目指す。受講生は必ず予習・復習を励行し、出席を怠らないこと。また毎課の後に附している練習問題は宿題として必ず提出すること。出席状況及び宿題の提出をもって平常点とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期> 復習編（一）～（五）及び応用編第1課～第5課</p> <p><後期> 応用編第6課～第14課</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点と前・後期の試験による。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>香坂順一 編『簡約 現代中国語辞典』 光生館</p>			
<p>[教科書]</p> <p>丁秀山、坂井田ひとみ 編著 『日常的对話』 金星堂</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅱ a 中国語Ⅱ b	0 2 0 2	通 期 通 期	2 単位 2 単位	サ 左 コ 虹
[講義概要・学習目標] 中国語の発音と文法知識をより確実なものにしながら、日常の色々な言葉の表現を学ぶ。目標として、自分で簡単な語句を連ねて、場に応じて会話を行う事が出来る能力を養成する。	[講義計画] 前期：Unit 1～Unit 5 後期：Unit 6～Unit 10			
[成績評価の方法] 前後期定期試験のほか、出席、小テストなどを平常成績として総合評価する	[参考文献] 日中・中日辞書を購入すること			
[教科書] トーク・トピックス 沈国威・安力 著 白帝社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語Ⅱ a 中国語Ⅱ b	0 3 0 3	通 期 通 期	2 単位 2 単位	ジ 徐 コ 特 功 国 玉
[講義概要・学習目標] 1年次で学んだピンイン、語彙、文法事項を復習しながら、より上の段階の語彙、文法を系統的に学習する。徐々にちよつと難しい会話ができるように進めていく。 中国語の基礎をしっかりと身につけることを目標とする。	[講義計画] 【前期】 第1課 ～ 第7課 【後期】 第8課 ～ 第15課			
[成績評価の方法] 出席状況、平素の小テストの評点と 前期、後期のテストの評点で総合的に評価する。	[参考文献] 【精選日中・中日辞典】(東方書店)			
[教科書] 『しっかり身につく基礎中国語』(徐国玉/山田忠司 著 2003年秋出版予定)				